

2023年度 事業報告書  
2023年度 決算書

学校法人 白梅学園



# 目 次

[ I ] 2023 年度理事長報告 .....	1
[ II ] 学校法人の概要 .....	2
1. 基本情報 .....	2
2. 建学の精神 .....	2
3. 学校法人の沿革 .....	3
4. 入学定員・学生・生徒・園児数 .....	4
5. 収容定員充足率 .....	4
6. 組織図 .....	5
[ III ] 2023 年度各部門主要事業報告／中期的な計画(最終年度)の進捗・達成状況 .....	6
1. 学園・法人事務局 .....	7
2. 白梅学園大学・短期大学 .....	15
3. 白梅学園高等学校 .....	23
4. 白梅学園清修中学校・中高一貫部 .....	27
5. 白梅学園大学附属白梅幼稚園 .....	31
[ IV ] 財務の概要 .....	38
1. 決算の概要 .....	38
2. 収支状況 .....	38
3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策 .....	43
4. 財務諸表 .....	44
5. 財務状況の推移等 .....	48
6. 主な財務比率比較 .....	51
[ VI ] データ集 .....	54
1. 役員の概要 .....	54
2. 評議員の概要 .....	56
3. 2023 年度理事会・評議員会の開催状況 .....	57
4. 教職員の概要（専任教職員数） .....	57
5. 2023 年度進路状況 .....	58



## [ I ] 2023 年度理事長報告

### 【学園創立 80 周年記念事業】

学園創立 80 周年記念事業募金活動については、概ね順調に進捗した。大学・短大後援会から 4,000 万円の御寄付をいただき、寄付総額は 65,075,482 円となった。また、募金活動及び学園広報の一環として、「白梅の織りなす歴史つなぐ想い」と題して、各学校の取り組み・近況報告をホームページで毎月発信した。

年史編纂については、50 周年記念誌を参考にしながら補遺版を作成する方向性を確認した。

なお、中長期の財政見通しや、学科の改変計画などを踏まえ、新棟建設計画を見直すこととした。

### 【ランドデザインの策定】

白梅学園ランドデザイン策定に向けて「白梅学園ランドデザイン策定会議」を設置した。策定会議の下に教学・経営ランドデザインの各分科会を設置し、検討を開始した。2024 年 7 月末までに中間報告を予定している。

### 【次期中期 5 ヶ年計画の策定】

2019 年度～2023 年度までの 5 か年の中期実行計画（第 1 期中期実行計画）について振り返りを行い、2024 年度～2028 年度を対象とした、第 2 期中期実行計画を策定した。

### 【ガバナンス改革】

私学法改正への白梅学園としての対応案を検討し、理事会・評議員会にて説明を行った。2025 年 4 月の改正私学法施行に向けて、寄附行為変更などの準備を進めている。

### 【中長期財政再建策の検討】

2019 年度に策定した財政再建策を着実に実行している。入学・入園者数の動向を注視しながら、予算編成や資金計画を検討し、随時、常勤理事会や理事会に報告している。

また、2023 年度の募集活動においては、昨年度に続いて、各学校とも入学定員に満たない結果となった。引き続き、募集の目標・施策を明確にし、常勤理事会で取り組みの進捗を適宜確認しながら入学者数の増加に取り組む。

(理事長 井原 徹)

## [Ⅱ]学校法人の概要

### 1. 基本情報

(2023年4月1日付)

#### (1)法人の名称

学校法人白梅学園(大臣認可年月日 昭和28年12月15日)

#### (2)主たる事務所の住所

〒187-8570 東京都小平市小川町1丁目830番地

#### (3)設置する学校・学部・学科

##### ①白梅学園大学

大学院 子ども学研究科

子ども学部 子ども学科

発達臨床学科

家族・地域支援学科

##### ②白梅学園短期大学

保育科

##### ③白梅学園高等学校

##### ④白梅学園清修中学校

##### ⑤白梅学園大学附属白梅幼稚園

### 2. 建学の精神

#### 「人間を愛し、人間の価値を最高度に実現しようとするヒューマンイズムの理念」

本学園は、1942年、社会教育協会を立ち上げた小松謙助が、学園の初代学園長である穂積重遠とともに、現在の東京都文京区に設立した東京家庭学園に始まった。戦火に見舞われながらも今日まで教育活動を継続し、現在は大学、短期大学、高校、中学、幼稚園からなる総合的な学校法人となった。

本学園の建学の精神は「人間を愛し、人間の価値を最高度に実現しようとするヒューマンイズムの理念」にある。科学性・社会性・芸術性の3つの基礎の上にたって個人の価値を高めるとともに、各分野を通じて広く社会の幸福に建設的な社会人の育成を目指している。

### 3. 学校法人の沿革

1942(昭和17)年3月	東京家庭学園設立
1950(昭和25)年3月	白梅幼稚園設置
1953(昭和28)年4月	白梅保母学園を創立、厚生省より保母養成機関の指定
12月	学校法人白梅学園設置
1955(昭和30)年3月	白梅保母学園を白梅学園保育科と名称変更
1957(昭和32)年4月	白梅学園短期大学設置 保育科第1部、同第2部開設
1961(昭和36)年4月	心理技術科第1部、同第2部開設(平成元年 心理学科と名称変更) 専攻科保育専攻第1部、同第2部開設
1964(昭和39)年4月	白梅学園高等学校設置
1966(昭和41)年4月	短期大学教養科開設
1987(昭和62)年4月	保育科第2部、心理技術科第2部、専攻科保育専攻第2部募集停止 専攻科保育専攻第1部開設
1989(平成元)年4月	専攻科福祉専攻(介護福祉士養成施設)開設
1992(平成4)年4月	専攻科福祉専攻、学位授与の認定
1993(平成5)年4月	専攻科保育専攻、学位授与の認定 保育科第2部、心理技術科第2部、専攻科保育専攻第2部の廃止 保育科第1部を保育科、心理学科第1部を心理学科、 専攻科保育専攻第1部を専攻科保育専攻と名称変更
1998(平成10)年3月	専攻科保育専攻1年課程廃止
4月	専攻科保育専攻2年課程開設 福祉援助学科(介護福祉士養成施設)開設
2005(平成17)年4月	白梅学園大学子ども学部子ども学科設置 短期大学教養科、専攻科保育専攻募集停止
2006(平成18)年3月	短期大学教養科、専攻科保育専攻廃止
4月	白梅学園清修中学校設置
2008(平成20)年4月	白梅学園大学大学院子ども学研究科子ども学専攻修士課程設置
2009(平成21)年3月	専攻科福祉専攻廃止
4月	白梅学園大学子ども学部発達臨床学科開設 短期大学心理学科募集停止
2010(平成22)年4月	白梅学園大学子ども学部家族・地域支援学科開設 白梅学園大学大学院子ども学研究科子ども学専攻博士課程開設 白梅学園短期大学福祉援助学科募集停止
2011(平成23)年3月	白梅学園短期大学心理学科廃止
2012(平成24)年3月	白梅学園短期大学福祉援助学科廃止
2023(令和5)年4月	白梅幼稚園を白梅学園大学附属白梅幼稚園と名称変更

#### 4. 入学定員・学生・生徒・園児数

(2023年5月1日付)

##### 白梅学園大学大学院

研究科・専攻科名		入学定員	収容定員	1年	2年	3年	計
子ども学研究科	修士課程	15	30	2	9	0	11
	博士課程	7	21	0	4	4	8
合計		22	51	2	13	4	19

##### 白梅学園大学

子ども学部	学科名	入学定員	編入学定員	収容定員	1年	2年	3年	4年	計
	子ども学科	135	10	560	135	142	134	157	568
	発達臨床学科	50	10	220	48	46	51	54	199
	家族・地域支援学科	40	10	180	24	36	44	47	151
合計		225	30	960	207	224	229	258	918

##### 白梅学園短期大学

学科科名	入学定員	収容定員	1年	2年	計
保育科	95	190	84	85	169
合計	95	190	84	85	169

##### 白梅学園高等学校

	入学定員	収容定員	1年	2年	3年	計
全日制課程普通科 (含 清修中高一貫部)	340	1,020	267	301	301	869
合計	340	1,020	267	301	301	869

##### 白梅学園清修中学校

	入学定員	収容定員	1年	2年	3年	計
白梅学園清修中学校	60	180	44	55	41	140
合計	60	180	44	55	41	140

##### 白梅学園大学附属白梅幼稚園

	入学定員	収容定員	3歳	4歳	5歳	計
白梅学園大学附属白梅幼稚園	70	210	42	57	54	153
合計	70	210	42	57	54	153

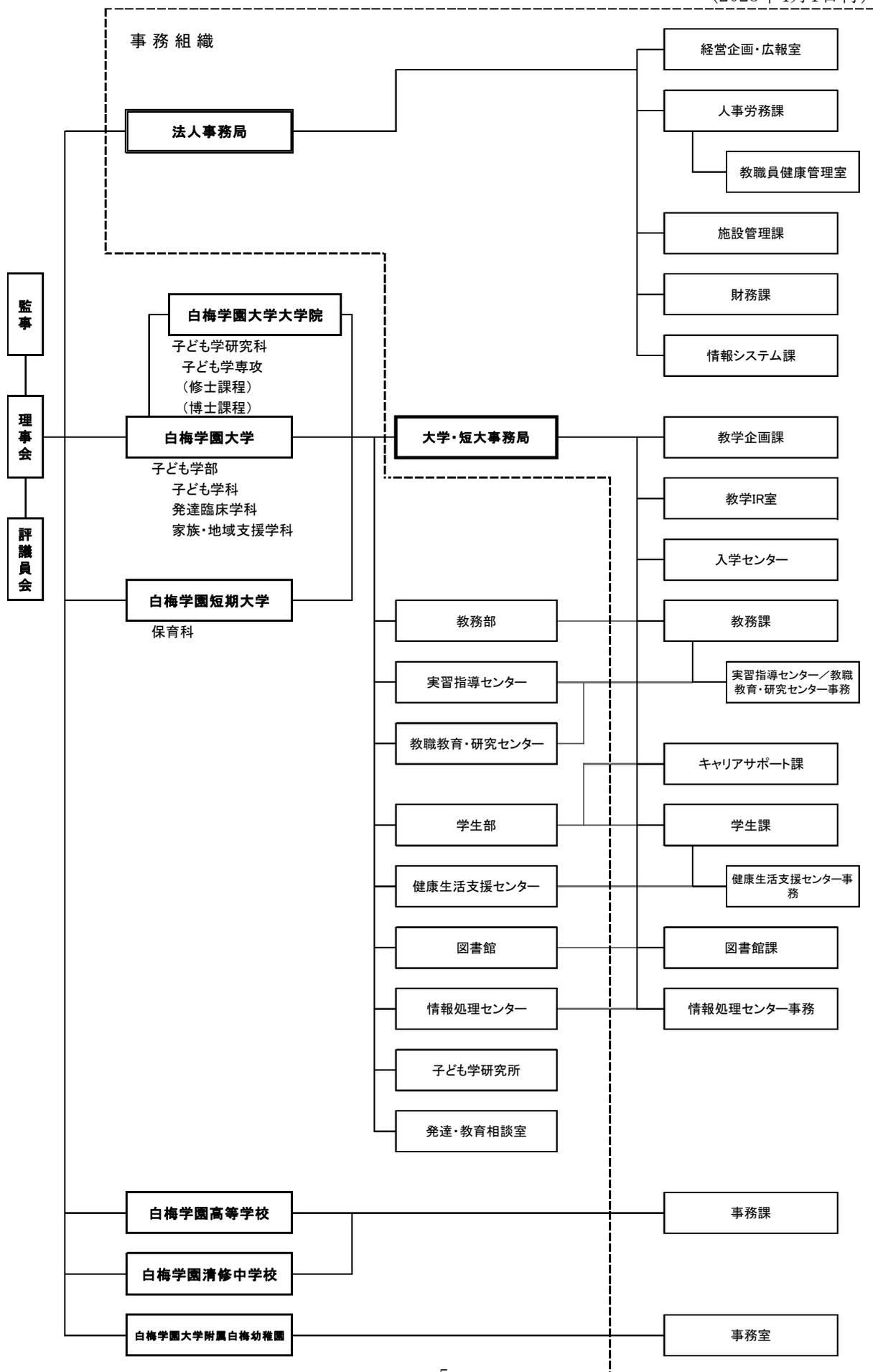
#### 5. 収容定員充足率

(毎年度5月1日付)

学校名	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
白梅学園大学大学院	82%	65%	67%	67%	37%
白梅学園大学	105%	102%	102%	100%	96%
白梅学園短期大学	102%	104%	103%	95%	89%
白梅学園高等学校	77%	77%	85%	86%	85%
白梅学園清修中学校	37%	37%	48%	68%	78%
白梅学園大学附属白梅幼稚園	83%	78%	73%	74%	73%

## 6. 組織図

(2023年4月1日付)



### 【Ⅲ】2023年度各部門主要事業報告／中期的な計画(最終年度)の進捗・達成状況

2023年度事業計画は下記の17項目で策定した。この項目に基づき、部門別に関連する項目の主要事業について報告する。

#### 【2023年度事業計画 策定項目】

- [1]教育活動の推進
- [2]研究活動の推進
- [3]学生・生徒・園児支援の推進
- [4]学生・生徒・園児の確保
- [5]学園広報の推進
- [6]国際交流の推進
- [7]生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進
- [8]卒業生との連携等の推進
- [9]働き方・仕事の仕方の見直し
- [10]建学の精神の高揚
- [11]令和充実5ヵ年計画・80周年記念事業
- [12]大学・短期大学新棟・施設中長期整備計画
- [13]財政再建計画
- [14]ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底
- [15]管理運営（施設改修・更新・労務他）
- [16]情報化教育/ICT
- [17]新型コロナウイルス感染症に関する取組

## 1. 学園・法人事務局

2023年度は、第1期中期実行計画の最終年度であり、次期中期実行計画を検討・策定を行った。さらに、2040年の白梅学園を担う世代を含めた教職員による「白梅学園のランドデザイン」に向けた検討を開始した。

また、学園の「令和充実5カ年計画」(2021年度～2025年度)の3年目にあたり、学園創立80周年記念事業の中心的な事業として大学・短期大学の棟建築を予定通り進捗させることに取り組んだが、財政見通しの悪化を受けて計画の見直しを行った。

以下、主な施策の進捗について報告する。

### 1. 学園ランドデザイン、次期中期計画の作成

理事会にて、第1期中期実行計画(2019～2023年度)の振り返りと、第2期中期実行計画(2024～2028年度)についての原案を確認し、評議員会の諮問を経て第2期中期実行計画を策定した。

白梅学園ランドデザイン策定に向けて、策定会議を設置して検討を開始した。策定会議の下に、経営ランドデザイン分科会及び部門ごとの教学ランドデザイン分科会を発足し、より具体的な議論を行った。2024年7月末を目途に中間報告を行う予定である。

### 2. 学園創立80周年記念事業

#### (1) 大学・短期大学棟建設

設計施工者を決定し、コンストラクションマネジメント担当者とともに協議を重ね、学園の要求を満たす棟の基本設計を行った。

一方で、2024年度の入学・入園者数大幅減少による厳しい財政見直しを受けて、当面の主な支出項目である棟建設計画について総額予算や規模・スケジュールの見直しを行ったため、実施設計の着手には至らなかった。

#### (2) 学園創立80周年記念事業募金

卒業生や在校生、保護者、教職員(OG・OBを含む)などからの、2023年度の寄付金額は約1,400万円である。さらに大学・短大後援会からの寄付金4,000万円を加えて、2023年度の寄付金額計は約5,400万円である。これまでの寄付総額は65,075,482円となった。

#### (3) 年史編纂

50周年記念誌を参考にしながら補遺版を作成する方向性を確認した。2024年度は定期的な打合せを実施し、さらに具体的な計画を立案する予定である。

### 3. 私学法改正対応

文部科学省の説明資料等に基づき、白梅学園としての対応案を検討し、常勤理事会・理事会・評議員会にて説明を行った。2025年4月の改正私学法施行に向けて、寄附行為変更など必要な対応準備を進めている。

### 4. その他の施策、次年度に向けた課題

#### (1) 学園財政再建のための方策の検討

2023年度は、年度当初から各校の募集目標・施策を明確にし、取組の進捗を常勤理事会にて確認していたが、2022年度に続き、2023年度の募集活動においても、各学校とも定員を充足することができなかった。厳しい現状を再確認し、教職員が一体となってより一層の財政改善に取り組む。

#### (2) 大短新棟建設プロジェクトの見直し

大学において2026年度改組を目指している新学科の検討状況などを踏まえて、大学・短期大学棟に必要な要素を再検討しており、2024年8月ごろまでに要件を整理する予定である。

#### (3) 学園広報の見直し

各部門のホームページについて「画面のわかりやすさ、見やすさ」「内容や構成」についての見直しを行っている。2023年度は、各学校の取組・近況報告を「白梅の織りなす歴史つなぐ想い」と題して継続的に発信した。募集対策の側面からさらなる改善を目指し、2024年度も継続して取り組む。

(法人事務局 事務局長 舟橋 徹)

【主要な事業の報告】

(学園・法人事務局)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

2023 年度の主な取り組み				
施策名	中期計画の全体像	2023 年度(中期計画 5 年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023 年度(中期計画 5 年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)大短新棟の建築 (2024 年度工事着工、2026 年度供用開始予定)	2023 年度までの本中期計画では、 ・新棟の規模・場所・施設の内容等を、建築委員会等で論議決定 ・2025 年度大学短大新棟工事着工、2027 年度供用開始に円滑につなげる。	・2026 年 1 月の大短新棟建設完了 (2026 年 4 月供用開始) を目標として、スケジュールに基づき、着実に建設計画を進める。 ・2023 年 3 月に選定した設計・施工を担う建設業者と、基本設計・実施設計の具体的な検討を行う。併せて、ICT 関連、什器備品、引っ越し等の付帯工事についても検討し、適宜、常勤理事会、理事会に諮り、総事業費を超えないように十分留意して取り組む。	C	・設計施工者を決定し、コンストラクションマネジメント担当者とともに協議を重ね、学園の要求を満たす新棟の基本設計を行った。 ・一方で、2024 年度の入学・入園者数が大幅に減少し、学園の収支が悪化する見込みとなった。このため、新棟建設計画を見直すこととし、常勤理事会にて検討を行った。 ・2026 年度を目標とした大学の学科改組の検討を踏まえ、新学科に必要な諸室・機能を考慮しながら、2024 年の 8 月ごろまでに新棟の要件を取りまとめる。
(2)学園 80 周年記念事業 ・学園史・学校史 ・創立時の建学の精神 ・募金 ・記念行事 等	①80 周年事業の遂行 ・80 周年事業の遂行 (委員会設置、各種事業の実施) ②建学の精神の咀嚼・理解・伝承 ・全教職員での建学の精神について理解を深める ・新入職者への建学の精神伝承	①80 周年募金については、常勤理事会を 80 周年募金委員会とし、その下に 80 周年募金室を設置した。募金室を中心に、趣意書に基づいて卒業生や教職員 OG・OB、在校生、保護者、企業、地域の方々等に対して募金活動を開始する。募金目標額は 2 億円、募金期間は 2023～2027 年度 (予定) とする。大学・短大同窓会、後援会との相談を継続し、募金の段取りを具体化する。 (80 周年募金室) ②年史編纂に向けて、大短史資料の収集と整理を行う。 (年史編纂室)	①A ②C	①卒業生や在校生、保護者、教職員 (OG・OB を含む) などからの、2023 年度の寄付金額は約 1,400 万円である。寄付者に対してお礼状や記念品を送付した。さらに大学・短大後援会からの寄付金 4,000 万円を加えて、2023 年度の寄付金額計は約 5,400 万円である。これまでの寄付総額は 65,075,482 円となった。今後、大学・短大同窓会からの寄付を予定している。 ②年史編纂については、50 周年記念誌を参考にしながら補遺版を作成する方向性を確認した。定期的な打合せを開催できなかった。2024 年度は定期的な打合せを実施し、さらに具体的な計画を立案する予定である。
<2023 年度追加> (3)学園グランドデザイン 次期中期計画の作成	-	①2023 年で満了する現中期 5 年計画の振り返りを行う。 ②人口減少が進展する中、財政面、施設面、教学面につき有機的に関連することから、教学・法人一体となって、中長期の白梅学園のグランドデザインを話し合い、その実現の第一歩としての次期中期実行計画を作成する。 ③文部科学省の「2040 年のグランドデザイン」を参考に、外部理事にも参加いただきながら、2040 年の白梅学園を担う世代を中心に「白梅学園のグランドデザイン」に向けた検討を進める。	①A ②C	①11 月理事会にて、第 1 期中期実行計画の振り返りと、第 2 期中期実行計画についての原案を確認し、評議員会にて意見をうかがった。その後、1 月理事会にて、評議員会の意見を踏まえて、第 2 期中期実行計画を承認した。2024 年度早々にホームページにて公表を予定している。 ②白梅学園グランドデザイン策定に向けて、策定会議を設置して検討を開始した。策定会議の下に、経営グランドデザイン分科会及び部門ごとの教学グランドデザイン分科会を発足し、より具体的な議論を行った。2024 年 7 月末を目途に中間報告を行う予定である。

【主要な事業の報告】

(学園・法人事務局)

【年間評価（成果）】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

<p>(4) 私学法改正対応</p>	<p>全部門において意思決定の迅速化・透明性確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校法人の自主的ガバナンスの改善／強化</li> <li>・責任と権限の明確化</li> <li>・ガバナンスコード策定</li> </ul>	<p>私学法改正（令和7年4月施行予定）の流れを見据えながら、対応準備を進める。（私学法改正とともに、会計基準の見直し）</p> <p>【私学法改正案の検討スケジュール（見込み）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年通常国会(1月～5月)に法案上程、審議</li> <li>・政省令、経過措置等の検討、会計基準の見直し</li> <li>・2025年4月施行予定</li> </ul> <p>【私学法改正案の主な検討項目】</p> <p>「執行と監視・監督の役割の明確化・分離」の考え方の下、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事と評議員の兼職禁止</li> <li>・評議員の下限定数は、理事の定数を超える数まで引き下げ</li> <li>・学校法人の基礎的変更に係る事項・重要な寄附行為の変更は理事会の決定とともに評議員会の決議を要する。</li> <li>・理事長の選定・解職は理事会で行う。</li> <li>・理事の選任機関として評議員会その他機関を寄附行為で規定</li> <li>・監事の選解任は、評議員会の決議</li> <li>・リスクマネジメント、内部監査、監事への内部通報等理事会へ義務付け</li> <li>・会計監査人による会計監査の制度化</li> <li>・私学法・私学振興助成法に基づく計算書類や会計基準の一元化</li> </ul>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私学法改正に関する説明資料を基に、白梅学園としての対応案を検討し、常勤理事会・理事会・評議員会にて説明を行った。2025年4月施行に向けた、作業スケジュール案に則り、寄附行為変更などについて準備を進めている。</li> </ul>
--------------------	--	---	----------	---

【主要な事業の報告】

(学園・法人事務局)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

5. 学園広報の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1) 学園広報の見直し	<p>白梅学園の良い取り組みや魅力をもっと地域や保護者・志願者等学園内外により理解してもらうよう広報体制を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報公開規程の制定(昨年度実施)</li> <li>・学園広報のあり方・考え方</li> <li>・具体策(学園広報誌、HPのあり方)</li> <li>・具体的な発信の仕組みづくりと定着</li> </ul>	<p>①学園全体のホームページデザインを新しいものに変更する。</p> <p>②ホームページでの発信内容について、「何が発信できているのか」「もっと発信強化すべきものはなにか」を整理し、外部にアピールできる情報を発信できる体制を整える。</p> <p>③学内情報共有、学外情報発信について外部理事も交えたチームで、検討する。次期中期5か年計画策定に向けて総合的に検討する。</p>	<p>①B ②B ③A</p>	<p>①大短のホームページは4月、法人のホームページは8月、清修のホームページは2月にリニューアルを実施した。高校・幼稚園のホームページリニューアルは延期し、2024年度の早い時期に実施予定である。</p> <p>②大短のホームページについては、リニューアル後に専門家による分析を実施した。表示方法や使い勝手などの改修要望を受けて、12月にTOPページの改修を行った。2024年度には募集対策の観点からさらなる改修を検討する。</p> <p>③創立80周年記念事業募金活動の一環として「白梅の織りなす歴史つなぐ想い」と題して、各学校の取組・近況報告をひとつにまとめて情報発信を行った。3月末までに合計10回の更新を実施した。「白梅の織りなす歴史つなぐ想い」については、2024年度も継続して、情報発信を行う予定である。</p>
9. 働き方・仕事の仕方の見直し				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1) 大学事務組織、法人事務組織の見直し	<p>事務職員の役割の質的見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学学長のもと、教員を支援し、大学運営基盤を支える業務を安定的に遂行できるよう大学職員の役割/業務/役職を見直す。</li> <li>・自己研鑽と研修の仕組みを整備する。</li> <li>・法人事務局の機能/要員強化</li> </ul>	<p>大短新棟供用開始の2026年度を目途として、以下の観点を踏まえて、次期中期計画検討の中で総合的に検討・具体化を行う。</p> <p>①大学設置基準等の改正に基づき、教員の研究教育の時間確保、教員と職員の役割分担の機能的見直し</p> <p>②ICTによるペーパーレス化等の活用による時間の創出</p> <p>③学生本位の視点に立った、大学事務組織全体での「ワンストップ窓口」を実現</p> <p>④職員の業務優先順位と業務分担を見直し</p> <p>以上により、社会の変化、教育環境の変化に対してアンテナ高く、積極的に提言実行できる事務組織を目指す。</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人事務局と大短事務局の構成について、機動性を高め、相互に情報共有を促進することを目的として、期中に人事異動を行った。</li> <li>・2026年度に向けた事務組織の在り方について、経営グランドデザイン分科会にてさまざまな角度から検討した。</li> <li>・事務職員の仕事評価のあり方について検討を開始した。</li> </ul>

【主要な事業の報告】

(学園・法人事務局)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

13. 財政再建計画				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)人件費・物件費見直し計画の着実な実行	・「学生・生徒・園児の教育基盤を充実させ、学園が持続的に教育使命を果たしていく」ために従来の「学園の財政のあり方」を見直す。財政再建策に則り、人件費・物件費を学生・生徒・園児の教育基盤充実にシフトする。	①財政再建策を着実に実行する。 ②財政再建策の必要性について、わかりやすい情報発信を行う。 ③2021年度の夏季集中討議における確認事項、『「学園の持続的存続・発展」に必要な資金の確保にむけて「教育活動収支差額」を拡大する』方策を引き続き模索し、次期中期計画につなげる。	B	・夏季賞与及び冬季賞与について、財政再建策を着実に実行した(夏季賞与1.5ヶ月支給、冬季賞与2.0カ月支給、年間計3.5カ月支給)。 ・教職員員組合との団体交渉により、物価高騰一時金3万円、入試繁忙手当3万円、計6万円の年度末一時金を支給した(支出総額概算1200万円)。
(2)学生生徒数の安定的確保に向けた収入面の取組・計画検討	・全部門において安定的に収容定員が充足	④2022年度8月版の資金計画案(20年)をベースに、学園全体及びは各部門施策と連動した実効性のある5か年資金計画作成する。 ⑤④と連動する各施策について、確実に実行されるよう進捗管理を行い、必要に応じて適宜計画の修正をはかりながら、持続可能な財政構造の構築に向けて歩を進める。	A	・学生生徒園児数については、常勤理事会において2023年度募集活動の振り返りを行い、2024年度入学者の目標値・見込み数を随時確認した。 ・2024年度入学者の見込み数に応じて、速やかに予算編成や資金計画を更新し、都度、常勤理事会へ報告した。 ・2024年度入学者数が大幅に減少したことを受け、中期的な財政計画の見直しに着手した。
(3)重点方針・重点取組に基づいた新予算制度の着実な実行	・学園の中長期的な戦略に基づき、当該年度の重点方針・重点予算を決定する。	・2021年の常勤理事会にて、当面の最重要取組は「大短新棟建築に向けた資金積立」であることを確認 ・大きな額の予算配分は難しい状況が続くが、各部門の重点方針・重点取組に基づいた予算編成の着実な実行する。 ・重点予算と事業計画や中長期計画と連動化を図る。	B	・2024年度予算編成は、全学的に支出の見直しに努めたものの、入学・入園児数の減少に伴う減収幅が大きく(当初予算案より▲1.04億円)、2024年度に限定したうえで2.25億円のマイナス予算を組んだ。
(4)補助金等外部資金獲得	・学内体制を整備して、補助金等が外部資金獲得態勢を構築し、一定の収入源とする。	・高中幼部門は、引き続き獲得可能な補助金はすべて獲得する体制を堅持する。 ・大短部門はPTが主軸となっており、改革総合補助金等の獲得に向けて引き続き取り組む。 ・多様化する補助金の情報を着実にやり取りし、法人事務局と各部門で連携しながら、可能性のある補助金は確実に獲得していくことを目指す。	A	・高中部門は、申請結果に基づき分析を行い、次年度に向けての課題等確認した。 ・幼部門は、年度内に分析及び課題共有を行った。 ・新たな補助金等の情報収集・共有は常に行い、各部門と共有した。

【主要な事業の報告】

(学園・法人事務局)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

15. 管理運営 (施設改修・更新・労務他)				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)個別修繕案件	・中期計画の項目ではないが、各部門の個別要請に基づき実施する。	・中期計画の項目ではないが、各部門の個別要請に基づき実施 (①転倒防止対策)	A	・2月中旬から下旬にかけて、書棚等の転倒防止対策として、大学短大部門において棚の固定を実施した。
(2)既存校舎の長寿命化のための維持管理	・2022年度9月の常勤理事会に向けて、今後15年間の改修計画を作成している。それを基礎資料として、長寿命化を計るか、建替えるかなどの検討を進めてゆく。	予算(案)と以下の実施 ①第2大体育館の屋根塗装工事の続き ②E棟の外壁塗装屋上防水工事の実施 ③各学校から申請のあった修繕の件 ④次年度に向けた警報盤更新関連の検討	①A ②A ③A ④C	①～③滞りなく完了した。 ④警報盤更新は、新棟建設計画との関係もあり、再検討することとした。
<2022年度追加> (3)改正個人情報保護法(2022年4月施行)への対応	-	①文書保存ルールの見直し ・保存期限を超えた個人情報の適切な廃棄(リスクの減少) ②内部監査・PDCAサイクルの構築	C	・他の業務を優先し、個人情報に関する内部監査を行うことができなかった。 ・個別に発生した個人情報流出に関連する事案(PC等の紛失)について、改定後の個人情報保護規程に則って対応した。 ・今後、改正私学法に基づく内部統制システム整備の一環として、保有個人データの保護と適切な管理を行う体制を整備する予定である。
16. 情報化教育/ICT				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)講義室等AV設備整備[大短]	-	・予算縮小のため授業運営上支障の発生しているF12講義室AV設備のリプレースのみに限定して行う。	A	・F12講義室のAV整備を実施し、前期授業から利用開始した。
(2)セキュリティ対策[全学]	-	・2023年度内に新規構築予定のサーバに対する不正挙動防止・保護対策(AppGuardServer)を行う。	B	・2023年度に追加された本番系サーバ(Garoon×1、コラボフロー×2、リモートアクセスシステム×2)計5台のセキュリティ対策としてAppGuardServer保護対象に組み入れるため、挙動監視・チューニング作業を行った。不正挙動ブロックの正規運用開始は2024年5月を予定している。
<2021年度追加> (3)80周年記念募金システム化[全学]	-	・80周年記念募金活動のため、寄付統合管理システム及びエフレジ(寄付金収納・決済代行サービス)の運用開始。(従来の白梅学園未来基金についてもシステム統合を行う)	B	・寄付統合管理システムのカスタマイズ(名寄せ機能)のコストカット仕様検討・設計作業まで完了した。2024年7月にテスト環境へ納品し、各種テスト実施後に本番稼働予定である。

【主要な事業の報告】

(学園・法人事務局)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

<p>&lt;2022 年度追加 &gt; (4)大短教員・事務職員学園貸与 PC リプレイス 大短教員ファイル共有環境構築</p>	<p>-</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デスクトップ PC → ノート PC+大型ディスプレイへ一斉入替</li> <li>・学内利用時、デスクトップ代替だけでなく自席以外利用時（会議等）のペーパーレス化への貢献、リモートワーク等外部からの接続時に安全性を担保したサービス利用環境構築</li> </ul>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023 年度に計画していた大短教員、事務職員へのノート PC リプレイスは完了した。</li> </ul>
<p>&lt;2022 年度追加 &gt; (5)幼稚園保育室環境等 ICT 整備</p>	<p>-</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AppleTV、ipad、投影用モニタを活用した幼稚園の保育教育計画・要効果検証。コミュニティホールの AV 設備導入</li> </ul>	<p>-</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算確保が困難であったため、ICT 整備を延期した。</li> </ul>
<p>&lt;2022 年度追加 &gt; (6)清修中 中学生用学園貸与端末追加</p>	<p>-</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生への 1 人 1 台端末学園貸与</li> <li>・現中学 3 年（卒業予定）23 名と新入学生の人数差分を整備</li> </ul>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4 月から中学生全員が利用できるよう端末設定・配布を完了した。</li> </ul>
<p>&lt;2022 年度追加 &gt; (7)業務効率化、ペーパーレス化、情報共有環境 ICT 整備（設計作業）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出校時業務とリモートワークを併用して実施できるよう段階的に教職員端末環境、各種サービスの整備を実施する。</li> <li>・教職員の情報共有環境再構築やペーパーレス化、ID 統合等による業務効率化を図り、教職員の業務負荷を軽減する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイボウズ Garoon、コラボフロー、勤怠管理システムのセット導入により、教職員の情報共有環境の充実、ペーパーレス化、教職員の業務負荷軽減実現</li> </ul>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイボウズ Garoon（学園情報共有グループウェア）、コラボフロー（電子申請・承認システム）、勤怠管理システムを、運用開始した。運用開始後に発生した障害、不具合対応を随時行った。</li> <li>・各種ワークフロー申請書類（稟議書、具申書、備品用品購入申請書等）は 2024 年 4 月 1 日から運用開始予定である。</li> </ul>
<p>&lt;2022 年度追加 &gt; (8)出欠管理用 IC カードシステム整備（設計作業）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業環境改善や教員の負荷軽減を目的とした管理システムとカードリーダー等のハードインフラ環境整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LMS の無償バージョンアップにより、出欠反映の機能追加が実現した際は教員の日常的な業務負荷軽減に寄与する。</li> </ul>	<p>-</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023 年度中にメーカーからバージョンアップ機能搭載報告がなかったため、2024 年度以降に延期した。</li> </ul>
<p>&lt;2022 年度追加 &gt; (9)高校中学 教務・入試システム再構築（設計作業）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学・高校の教職員業務を担う校務システムのバージョンアップ</li> <li>・生徒・保護者と本学教職員を結ぶポータルサイトの構築</li> <li>・各種業務の見直しをシステム更新に合わせ実施し、業務改善・合理化につなげる。</li> <li>・入試システムのバージョンアップにより、より効率的な運用を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務システムの新バージョン利用開始に伴い、教員・職員の分掌整理や業務フロー見直しを行い、合理化・業務改善が図れているか精査・検証</li> <li>・入試システム及びポータルサイトの実稼働確認</li> </ul>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入試システムは実運用中に発生したバグ修正対応を含めて全ての導入業務を完了した。</li> <li>・次年度入試に向けて課題整理を行い、2025 年度入試判定基準を見極めたうえで必要に応じてカスタマイズを実施予定である。</li> <li>・ポータルサイトはシステムテスト・リリース準備に充てる時間が取れず年内リリースできなかつたため、2024 年 2 学期をターゲットに運用開始準備を進める。</li> </ul>

【主要な事業の報告】

(学園・法人事務局)

【年間評価（成果）】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

<p>&lt;2020年度追加&gt; (10)オンライン授業計画策定プロジェクトチーム</p>	<p>&lt;2020 理事長からの問題提起&gt; ・コロナ禍の中、オンライン授業の意義が中高、大短ともに大変重要となってきた。 ・今後、対面授業一本からオンライン授業それぞれの特性を踏まえた新たな授業形態を考え、再整理し、そのもとに情報化教育投資を行う。</p>	<p>・オンライン授業実施時、授業運営上の各種課題解決に向け実施した各施策の評価、将来に向けた改善事項の整理</p>	<p>C</p>	<p>・年度末新年度準備、補助金申請資料作成、2024年4月1日リリースの稟議書等新規ワークフローコンテンツ立ち上げ等の業務を優先し、開催しなかった。</p>
--	---	--	----------	---

## 2. 白梅学園大学・短期大学

1. 学修成果指標（アセスメントポリシー）を設定し、学修成果の可視化による教育の内部質保証の基盤構築を行った。また、昨年度より開始した卒論ルーブリック評価に加え、中間評価として学部2年生への評価体制を整えた。
2. 成績不振等によって退学・休学につながる状況に事前に対応するため、一定数を超えた授業欠席者に対する指導体制についてシステム化した。
3. 研究活動の推進については、科研費の新規申請件数が伸び、採択率の向上とともに子ども学研究所の支援が効果をあげている。
4. 広報機能の拡大については上期にHPのリニューアルを実現したのち、業者によるホームページ利用状況の分析を行い、ページ構成やデザインを再考するなどの改善に努めた。各学科やゼミナール活動のアップも多く、募集にもつながっていると考えられる。
5. 各種講座の開催、学生の地域ボランティア活動、近隣自治体（小平市、国立市、東村山市、あきる野市など）との連携等を通じ、社会貢献・地域連携活動を推進した。
6. 大学・短大の教育及び研究の質向上を目指し、教員が研究計画を実現できる環境を整えるため、個人研究費の仕組みを改善し規程を整備した。

### 【予定通り進捗した主な施策】

1. 学修成果の可視化への取り組み（基盤構築）
2. 退学者・休学者を増加させないための方策の実施
3. 外部資金獲得に向けた研究支援
4. 教育・研究成果の発信、広報機能の拡大
5. 社会貢献・地域連携等の推進
6. 教員の研究環境の向上

### 【実施できなかった主な施策】

1. 国際交流の推進
2. 大学開学以降の歩みの整理
3. 学習支援システムのデータ分析に基づく体制の検証

### 【次年度に向けた課題】

1. 学修成果の可視化と学修者本位の教育の実現への具体化
2. 研究の活性化、地域連携活動を通じたグローバルなネットワークの構築
3. 学生支援体制の強化、学生の市民性の涵養、エージェンシーの発揮とキャリア啓発の支援
4. 発信力のある広報活動の展開、学生募集活動の強化、新たな改組構想の実現

（白梅学園大学・短期大学 学長 高田 文子）

【主要な事業の報告】

(白梅学園大学／大学院／短期大学)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

1. 教育活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)学修成果指標の策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの時代を生きる学生たちの「変革をもたらすコンピテンシー*1」(OECD)を本学として明確化、共有化し、カリキュラムや教育活動における実現を目指す。そのために、教学マネジメントをシステムとして確立させ、学修者本位の教育の実現を図るための教育改善に取り組む。</li> <li>・2022年度以降における</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学における学修成果指標(アセスメント・ポリシー)に基づき、学修成果の獲得状況データを確認し、推進する取り組みと改善する課題について整理する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育改善に向けた取り組みを推進するため、教学マネジメント・IR委員会を開催した。委員会ではアセスメントポリシーに基づく各種データの確認を行いながらデータ検証の担当を定めるなど、教学マネジメントシステムの基盤構築を行った。</li> <li>・課題の整理については2024年度に先送りした。3つのポリシーを起点とした内部質保証体制や教育環境の検証に基づく課題の整理を行い、分析結果とともに各学科・部局へとフィードバックし取り組みを加速する。</li> </ul>
(2)学修成果の見える化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルス感染の状況は不透明であるが、対面授業を原則とし、教育の質向上を目指す。</li> <li>・*1 コンピテンシー：資質・能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度に実施した(2月実施予定)卒論ループリックの評価を数値化し、他の教学データと紐づけた分析を行う。また2023年度も継続してループリックを使用した卒論評価を行う。</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教学マネジメント・IR委員会において、卒論ループリック評価等、学生の学修成果の獲得状況を可視化して確認し、適宜、フィードバックを行った。また、2024年度より実施予定だった中間評価(学部2年生段階でのループリックを使用した評価)を2023年度より試行的に実施できた。この評価結果について4月に学生へフィードバックする。</li> <li>・今後はシラバスの中で各授業がディプロマ・ポリシーのどの部分に該当するのかを明示し、学生が主体的、計画的に学修できるようにする。</li> </ul>
2. 研究活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)成果発信の強化・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子ども学研究所」における事業を中心に、研究調査(特に保育学・子ども学における共同研究の活発な展開)・地域連携・成果発信の取り組みを充実・発展させるとともに、知の集積拠点事業(子ども学アーカイブス)を進める。また、研究推進の成果を大学院教育の充実に還元する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども学研究所が助成している研究・活動について、前年度から継続している活動から順次、ホームページで発信する。古田家蔵書プロジェクトもあわせて発信する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども学研究所研究課題一覧、子ども学研究所活動プロジェクト課題一覧、及び活動内容をホームページに掲載し情報発信した。</li> <li>古田家寄贈書のうち、図書館で受け入れるおおよそ15,300冊あまりについてリスト化が完了し、その一部を蔵書として整備、2024年度より貸出を可能とする体制を整えた。</li> </ul>

【主要な事業の報告】

(白梅学園大学／大学院／短期大学)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

(2)新規申請者・採択率の増加に向けた研究支援		<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度申請においては、2022年度の結果を踏まえた改善を行いつつ申請支援を実施する。</li> <li>・また2020年度から取り組んできた、研究者の申請の動機付け、きっかけづくりとなる公募申請説明会の実施や、研究計画作成段階における個別具体的なアドバイス提供について効果測定を行い、次期中期計画に掲げる研究体制、支援体制に必要な事項、及びその優先度を検討する。</li> </ul>	S	子ども学研究所の支援体制が功を奏し、前年度には「研究代表者」として科研費の新規採択件数が大学で4件、短大では1件であった。今年度も説明会及び申請書の添削作業を行い、新規申請の代表課題数は8件、分担課題数が7件となった。
(3)研究不正防止への取り組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究不正防止体制強化の一環として、監事をはじめ理事会等と連携を図るため、事業報告の中で内部監査の実施状況を報告する。</li> </ul>	A	2月段階で継続中の監査を含め、すべての監査を計画通り実施した。監査結果の内容を踏まえ、研究活動に関わるマニュアルや規程、説明会の内容を適宜、見直している。

3. 学生・生徒・園児支援の推進

施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)学生生活支援相談窓口の継続検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶ意欲のある学生が、充実した学生生活を送ることによって自己の能力を伸ばし、目指すキャリア実現が図れるよう、ひとりも取り残さない持続可能な支援体制を構築する。</li> <li>特に、心理面での支援や障がい学生への支援にとどまらない、さまざまな困り感を持った学生に対して、組織的に対応することをめざす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生課、健康生活支援センター(健康支援室、学生相談室、学生生活支援室)、学科(教員)の三者の協力体制と役割分担を明確にし、組織として学生支援を行う体制を整理する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生相談室、学生生活支援室、学生健康支援室の3室と学生課が連携をとり、心と健康、生活に課題を抱える学生について対応を進めた。介入の必要な学生を早期に把握し、本人に寄り添いながら情報提供や必要な専門職へつなげるなど、多職種で協働しながら丁寧な支援を心がけた。</li> </ul>
(2)生活困窮学生への継続的な支援		<ul style="list-style-type: none"> <li>・フードパントリー開催や学内での学生アルバイト業務提供を継続して行うとともに、他の形での支援について次期中期計画で取り組むべき課題を検討する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フードパントリーの開催、学生アルバイトの雇用は予定通りだが、コロナ禍を経て、今後、これらの支援がどのような目的をもって展開されるべきかについての中期的な構想は検討できていない。</li> <li>2024年度は課題の整理を行う。</li> </ul>
(3)学生のキャリア啓発の一環としての正課外活動支援		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の学生会活動や学園祭実行委員会活動、子育て広場等の地域交流イベント実施、サークル活動等の正課外の活動を、学生のキャリア啓発につなげる課外活動として支援するとともに、学生間のつながり、活動の継続を支えていく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の学生会活動や学園祭実行委員会活動、子育て広場等の地域交流イベント実施、サークル活動等、正課外の活動を学生のキャリア啓発につなげる課外活動として計画通りの支援を行った。</li> </ul>

【主要な事業の報告】

(白梅学園大学／大学院／短期大学)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

4. 学生・生徒・園児の確保				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)多様な形態での募集活動	・入学定員100%以上の入学定員数を確保し続けるとともに、本学の教育方針をより理解して志望する学生の確保に努める。	・あらたに4,5月にオープンキャンパスを実施することで、前年度3月から毎月オープンキャンパスを開催し、夏休み前の来場者数(接触者数)を増やして、出願につなげる。	C	・2024年4月入学者の学部入学者は250名の入学定員に対し161名(定員充足率64.4%)、短期大学入学者は80名の入学定員に対し68名(85.0%)であった。2025年度募集は18歳人口が増加に転じるものの、児童学・教育学等の志望者が依然として少ないとの情報が教育業者から得られている。本学のブランド力の強化、分野志望者の掘り起こしを、オープンキャンパスイベント(在学生・卒業生の積極的な登用)、高大連携事業(併設高校との連携強化)、高校訪問を通じて行う。また、収容定員充足率の改善に向けた3年次編入学の募集強化、次回改組に向けた申請を計画する。
(2)入試改革の実行		・2024年度入試において、白梅探究型入試を導入する。また、英語外部試験スコアの利用を可能とする入試を実施する。一方、学校推薦型選抜(公募型)は廃止する。 ・2025年度入試は、新学習指導要領に対応した新たな科目名等での入試を実施する。実施内容について、高校新2年生に向けて説明をしていく。		A
(3)改組に向けた募集活動の展開と入試制度設計				-
5. 学園広報の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)大学における広報・情報発信業務の確立	・大学としての広報・情報発信を積極的に行い、白梅学園大学・白梅学園短期大学の存在を広める。	・リニューアルしたホームページでは、お知らせ・告知だけでなく、大学短大の活動報告を積極的に記事にする。年間20本の掲載を目標とする。	A	・活動記事を順次掲載している。学生や教員の活動時期が集中するため掲載時期にばらつきがみられる。コンスタントにあげられるよう、引き続きSNSも含め実施していく。
(2)ターゲットを意識した発信の工夫			S	・7月に業者によるホームページ分析を行い、閲覧者にとって利用しやすいページ構成、バナー掲載場所の改修を行った。 ・2024年度にはFD・SD委員会と入試制度委員会の共催という形で「Web・SNSを活用した学生募集戦略のこれから—本学の現状と課題」と題する研修会を実施する。

【主要な事業の報告】

(白梅学園大学／大学院／短期大学)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

6. 国際交流の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)国際交流活性化の具体的な支援策検討	・大学の諸活動、及び教員の研究活動について、英文での情報発信を強化する。また、教員の国際交流の活性化を図るとともに、学生の国際化意識を高める。	・この5年間で実施された教育活動及び研究活動における国際交流(教員の個人的な取り組みも含む)について実態を確認し、本学の状況に即した国際交流の在り方と推進策について検討する。	-	・2024年1月に白梅グランドデザイン策定分科会を開催したが現段階で検討していない。 2024年度は大学ホームページの英文発信、教員の国際交流支援について検討する。
(2)留学生の受け入れについて将来的方針の検討		・今までの状況(留学生数、入試問い合わせ件数等)を経年整理し、本学の状況に即した留学生受け入れの方針と体制について、将来方針を検討する。 ※今次の中期計画には入っていない事項だが、次期中期計画の策定に向けて取り組むべき事項であるため、2023年度事業計画として項目立てしている。	C	・タイの養成大学からの留学生受け入れを検討したが、日本の在留資格に課題があり(保育士は在留資格外)思うように進まなかった。 また、これまでの留学生志願状況等は確認したが、将来的な方針の検討にまで至っていない。2024年度は入試制度委員会をはじめ、関係部署において、将来的な受け入れ方針と体制を論議する。
7. 生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)各種講座の実施と実施状況の発信	・地域連携協定のもとで、大学と地域の結びつきを強めるとともに、教員の社会的活動の支え、取り組みを可視化して他の活動とつなげていく。また、活動で得られた学生の「学び」の軌跡を記録し、共有化を行っている。	・保育士キャリアアップ講座、公開講座、市連携講座を実施するとともに、2022年度は滞ってしまった実施状況の学内外発信について、リニューアルしたホームページを積極的に活用していく。	A	・保育士キャリアアップ講座、公開講座、市連携講座を実施し、ホームページで実施後の報告をした。また、キャリアアップ講座の次年度申請を予定通りに行った。
(2)地域ボランティアの実施		・学生のキャリア啓発活動として、キャリア形成と連動した地域ボランティアを積極的に進める。コロナ禍の状況にもよるが、ボランティアの機会が増えると思込まれることから、前年度比1.5倍の参加学生数(延べ)を目指す。	A	・学生のキャリア啓発活動としての地域ボランティア活動を予定通り実施した。中でも、地域連携キャリア啓発プロジェクトでは「小平市の特産品を用いて地域を盛り上げる活動」として小平市にある洋菓子店「ル・セル」と学生が協力して「Blueume(ブルウメ)」を製作し、販売に至っている。
(3)自治体等との地域連携協定		・教育学科の設置構想に伴い、小平市教育委員会との連携について、具体的な内容を詰める。 ・国立市との連携事業を、引き続き実施していく。	S	・地域社会からの要請を受けた各種講座の受託、学生の地域ボランティア活動、近隣自治体(小平市、国立市、東村山市、あきる野市)との連携による活動を展開した。

【主要な事業の報告】

(白梅学園大学／大学院／短期大学)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

8. 卒業生との連携等の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)卒業生を対象としたアンケートの実施	・母校への愛着、帰属意識をより高め、卒業後も応援し続けてもらえると同時に頼られる大学・短期大学をめざす。また、リカレント教育(現職者教育)を通じた卒業生との交流の場を積極的に設ける。	・2022年度に実施した(12月実施中)卒業生アンケートの結果を、次期中期計画で取り組むべき事項の検討の参考にする。	A	・教学マネジメント・IR委員会にて各種データの確認、卒業生アンケートの継続実施を確認した。
(2)卒業生とのつながりの強化		・同窓会総会において、講演会講師の派遣を行う。また、リニューアルしたホームページを卒業生に閲覧してもらえよう案内する。	B	・同窓会支部会等への講演会講師の派遣を行うことで卒業生との交流の場を設けた。学報という形ではないが、法人事務局との連携により80周年記念事業を通じた大学・短大の取り組み、近況報告をHPで情報発信した。
9. 働き方・仕事の仕方の見直し				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)教員の研究環境向上	・教職員の意識とともに、インセンティブを高めることによって、教職員が最大限の力を発揮できる環境を整え、大学・短期大学の教育及び研究の質向上を実現する。	・この5年間で取り組んできた研究支援について効果測定を行い、次期中期計画に掲げる研究体制、支援体制に必要な事項、及びその優先度を検討する。	S	・子ども学研究所の支援により、科研費の申請件数が伸び採択率も向上した。また、教員が研究計画を実現できる環境を整えるため個人研究費の仕組みを改善し、関連規程も整備した。
(2)教職員を対象としたFSD体制の再構築		-	A	・2024年1月にFD・SD委員会主催で「ChatGPT」に関する研修会を実施。教職員が各々の立場でAI技術の活用と理解を深めることができた。
10. 建学の精神の高揚				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)建学の精神を継承する教職員研修の実施	・大学・短期大学の歴史を伝える機会を設け、先人たちの志と建学の知的心性を知り、ヒューマニズムの精神の理解を深める。	・年史編纂室によってリスト化された資料を紹介し、大学・短大の今までの教育研究活動を共有する。	C	・学園が創立80周年を迎えたこともあり、大学としても同窓会等を通じて古くより本学に関わる人物へのインタビューや取材を進める必要があると感じている。また、大学開学25周年へ向けて記念誌の作成等、取り組みを進める必要がある。
11. 令和充実5ヵ年計画・80周年記念事業				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)将来構想策定委員会答申に基づく中期計画策定に向けた検討	・大学としての将来構想を策定し、中長期的な教学プランに基づいて大学運営を進める。また、80周年記念事業の一環である学園史編纂を通して、特に大学開学以降の歩みを整理する。	・次期中期計画を策定する。なお、次期中期計画においては、大学と短大を分けて記載することを原則とし、必要に応じて大学短大を合わせて記載する。	A	・法人事務局の策定スケジュールに沿って次期中期計画を策定した。
(2)大学開学以降の歩みの整理		・年史編纂室による、資料のリスト化を進める。	C	・1944年～2021年の年史資料一覧を作成するとともに、大学・短大の沿革(1990年代以降)を作成した。年史編纂室の作業成果をまとめるには至っていない。 ・2024年度は年史編纂室発足以降の作業成果をまとめる。

## 【主要な事業の報告】

(白梅学園大学／大学院／短期大学)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

12. 大学短大新棟・施設中長期整備計画				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1) 基本構想策定と基本計画の答申	・大学短大新棟について、2025年工事開始、2027年供用開始に向けて、建築委員会で検討を進める。	・常勤理事会から大学短大へ検討を依頼された事項について対応する。	-	・大学・短大新棟については建築委員会での検討内容をもとに基礎設計段階へと進んだが、総事業費の見直しから建築計画の変更が必要な状況となった。
13. 財政再建計画				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1) 大学・短期大学全体の適切な定員設定での改組	・収容定員100%を確保し続け、収入の安定化につとめる。	・あらたな入学定員となった、短大保育科、大学院修士課程、博士課程の定員を充足する。	C	・新たな入学定員での充足率は、大学子ども学部は64.4%、大学院修士課程60.0%、大学院博士課程150.0%(再入学者1名を除く)、短大保育科は85.0%となった。 ・学園財政の改善と、修学支援新制度対象機関の指定解除の回避のため、定員減の申請及び現行カリキュラムの見直し、次回改組の計画、収容定員充足率を改善する3年次編入学募集の強化、併設高校との連携強化を行う。
(2) 退学者・休学者を増加させないための方策実施		・2022年度から始めた、授業への出欠状況の共有を引き続き行う。前年度からの経緯も含め、退学・休学のリスクが高い学生へのアプローチを実質化する。	S	・成績不振等の理由によって退学・休学につながらないように、一定数を超えた授業欠席者の状況を把握し教務委員会に報告するなど、対応の質を向上させた。
14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1) 必要な諸規程の整備	-	-	A	・社会情勢を踏まえた大学・短大のリスク対応への取り組みとして、2024年2月にコンプライアンス委員会を開催し、学内コンプライアンス体制と関連規程の見直しを行った。 ・今後はリスク対応マニュアルの整備を含め、法人事務局と足並みを揃えて対応する。
(2) 白梅学園大学・短期大学ファクトブックの作成	-	・2022年度はデータの整理で終わってしまったため、2023年度は学内関係者と共有できる形に整え、情報公開の対象となっている基礎的データの経年変化を、常勤理事会等学内関係者と共有する。	A	・教育の質保証の観点から三つの方針に基づくアセスメントポリシーを定め、大学レベル・教育課程レベル・科目レベルの三階層で学修成果等を測定・評価したデータの収集を行った。それらをファクトブックとしてまとめ、教学マネジメント・IR委員会、自己点検・評価委員会及び学科長会議でフィードバックし、分析内容の共有を図った。

## 【主要な事業の報告】

(白梅学園大学／大学院／短期大学)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

15. 管理運営 (施設改修・更新・労務他)				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)建物設備整備の更新要請	・建物設備の定期的な更新を実施し、学生の教育環境として、時代に即した快適な施設設備であり続けられるよう、法人事務局と協働して進める。	・図書館の空調設備の更新、第一大体育館の空調設備整備を要請する。	-	下記内容について、2024年度予算を請求をしたが認められなかった。 ・F棟のトイレ改修(洋式化) ・第一大体育館への空調設置 ・図書館E棟1階、地下階のエアコン増設 ・学内講義室等の換気環境の整備
16. 情報化教育/ICT				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)学習支援システムの活用状況検証	・学習支援システム(ラーニングマネジメントシステム)の活用と合わせ、講義室のAV設備環境の統一化を図ることで、全ての授業がICTを活用した授業展開ができるようにし、ポスト・コロナ時代をも見据えた環境整備を進める。	・予算の確保ができず、今次の中期計画において講義収録配信システム整備の実施には至らなかった。学習支援システム(ラーニングマネジメントシステム:LMS)の活用状況を検証し、次期中期計画で実現すべきカスタマイズ等を洗い出す。	B	・WebClassの活用が各方面で進んでいるが、学習支援ツールとしての効果測定とそれに基づく今後の整備方針については検討していない。 ・2024年度は対面授業と併せて活用する方法や学習効果を上げるツールとしての検証をもとに実現すべきカスタマイズ等を検討する。
17. 新型コロナウイルス感染症関連				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)対面授業の実施と感染症対策の意識向上	・子ども・人間にかかわる幅広い分野を学ぶこと、豊かな教養の知を身につけるために必要な、人と人との出会い、交流、支え合いが生まれる場として、感染症対策を講じながら、大学における教育活動を実施していく。	・対面授業を実施するにあたり、引き続き4月、9月のオリエンテーションを通して、学生自身の感染症対策に対する意識向上を図る。	A	・5月以降、5類に移行され、完全対面授業を実施している。

### 3. 白梅学園高等学校

生徒間及び生徒・教職員間の温かで人間的な触れ合いを通して、全教育活動を行った。特に、授業等を通しての学力形成及び特別活動等を通しての人間形成に努めた。今後、難関大学を目指す生徒たちへの組織的な学習指導の在り方が、取組課題の一つである。

#### 【予定通り進捗した主な施策】

##### 1. 教育活動の推進・研究活動の推進

「生徒間の対話及び表現」の場面がある授業づくりは、学校全体として前進している。2年目となる探究学習もおおむね順調に進んでいる。12月及び3月に特別選抜コース情報共有会を開催し、多くの教員が参加して現状分析・共有をした。

##### 2. 生徒支援の推進

5月の体育祭は1日での実施に戻し、かつ3年生保護者へ公開した。また、6月に4年振りに合唱コンクールを再開し、全学年保護者へ公開した。さらに、9月の白梅祭は一般公開こそしなかったが、中学生とその保護者、在校生保護者に制限なく公開し、2,278名が来校した。こうした活動を通して、生徒たちは学習と共に学校行事に取り組む意義を体感し、達成感・成就感を得た。

#### 【実施できなかった主な施策】

##### 1. 生徒の確保

体験入学、学校見学会、学校説明会、塾訪問のほか、新規にSNSによる情報発信なども行ったが、新入生は280名の募集定員のところ、249名しか集まらなかった。

##### 2. 働き方・仕事の仕方の見直し

月ごとの超過勤務一覧を提示し、個別面談も行ったが、毎月一定数の超過勤務者（80h超え）が生じた。

#### 【次年度に向けた課題】

##### 1. 生徒の確保

280名の入学生を確保すること。

##### 2. 生徒支援の推進

特別選抜コースにおける、より効果的で組織的な学習指導の在り方について、各教科内・担当者間で情報共有や検討を進めていくこと。その結果として、大学進学実績の向上を成し遂げる。

(白梅学園高等学校 校長 武内 彰)

【主要な事業の報告】

(白梅学園高等学校)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

1. 教育活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)新カリキュラムの整備	・本校の教育の目的に即した、充実したカリキュラムの作成	・第1学年及び第2学年において、新カリキュラムに基づいた教育活動を実施する。	A	・当初の計画通り、本校生徒の実態に応じた新カリキュラムを策定することができた。
(2)授業における「生徒間の対話の場面」の創造	・生徒による授業アンケートにおける5段階評価で4.0を目指す。	・生徒による授業評価アンケートにおける5段階評価で4.0を達成する。	S	・授業内における「生徒間の対話」の実施率は82.6%（専任教諭・常勤講師）と高い割合であった。生徒からの評価も目標値を上回った。
(3)ルーブリックによる観点別評価の試行及び実施	・2024年度に全校で完全実施する。	・第1学年及び第2学年の全科目において、ルーブリックによる評価を実施する。	A	・2024年度にすべての学年で新教育課程を実施することになるが、ルーブリックによる観点別評価が全学年で実施できる見通しである。
2. 研究活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)校内研修の充実	・学期に1回以上の校内研修が定着している。	・年3回程度の校内研修を実施する。そのうち、1回は「模試の分析と教科指導への反映」に関するものを行う。	A	・教育研究部による校内研修は学期に1回以上の割合で行われてきており、清修との合同研修も実施することができた。
(2)外部研修の充実	・全教員が年間に数回以上の校外研修を受けている。	・必要な研修に参加できるように情報提供する。	B	・全教員が校外研修を実施するまでには至らないが、さまざま研修案内を紹介することは継続できた。
3. 学生・生徒・園児支援の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)効果的な進路指導	・生徒が自分の進路先を明確にとらえ、それに向けて努力を重ねている。	・第1学年及び第2学年の特別選抜コースにおいて、模試の分析・情報共有を行い、全体でも共有して教科指導へ反映させる。	B	・進路指導計画に基づき、どの学年においても予定通りに進路指導を実施した。今後は、難関大学を志望する生徒たちへの組織的な学習指導と進路指導を強化していく必要がある。
(2)生徒が生活しやすい環境づくり	・生徒全員が学校に居心地の良さを感じ、落ち着いて学習や学校行事、部活動などに取り組める環境ができています。	・体育祭、合唱コンクール、白梅祭を可能な限り通常の活動に近づけて円滑に実施する。	A	・入学してくる生徒の人柄や性質によるところが大きいが、居心地がよく落ちついて活動に取り組める環境が整っている。

## 【主要な事業の報告】

(白梅学園高等学校)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

4. 学生・生徒・園児の確保				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)募集対策	・280人の安定的な入学	・入学者数280人を確保する。	C	・学校見学会や説明会における1回あたりの上限人数を増やしたり、在校生を参加させたり、新たにSNSによる情報発信を始めたりしたが、安定的に280人の生徒を入学させることはできていない。
5. 学園広報の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)HPの充実	・他校と比べても遜色のない、魅力的なHPができています。	・前年度同様の更新回数を達成する。教育活動に関する更新は5日に1回程度、校長室だよりは18日に1回程度更新する。	B	・こまめな情報発信を行うこと、また、校長室だよりを発行することは中学生・保護者から支持された。ホームページのデザイン等の刷新は未着手である。
6. 国際交流の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)姉妹校提携	・姉妹校との生徒の交流が活発に行われている。	・オンライン交流会を実施する。	C	・コロナ禍の3年間があったこともあり、姉妹校締結には至らなかった。
(2)海外語学研修	・30名程度の生徒が海外語学研修制度を利用している。	・ニュージーランドにおける語学研修の再開を目指す。	C	・コロナ収束後も参加希望者が10名に至らなかったため、実施できていない。
(3)ターム留学	・3名程度の生徒がターム留学制度を利用している。	・ニュージーランドにおけるターム留学を継続実施する。	S	・2023年度にはターム留学を再開し、予定を超える4名の生徒が参加した。
7. 生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)22世紀 Shiraume Frontier Project (SFP)	・SFPが本校の教育のなかで定着し、内容、参加者ともに充実している。	・年2~3回程度、対話やグループ活動を取り入れながら開催する。海外進学者による講演会を新規実施する。	S	・学年・クラスを超えた学びの場として、SFPが充実したものとなり、参加者数も毎回数十名以上となっている。
(2)ボランティアスクール	・ボランティアスクールの内容、参加者ともに充実している。	・年2回実施する。	A	・年2回のボランティアスクールには毎回80名程度の参加があり、定着している。
8. 卒業生との連携等の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)卒業生の動向把握	・卒業生がどのような活躍をしているのか、学校が把握できている。	・第2学年を対象に、「OGの話を聞く会」を開催する。	A	・活躍している卒業生に学校案内への掲載など、協力を得ることができている。

【主要な事業の報告】

(白梅学園高等学校)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

9. 働き方・仕事の仕方の見直し				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)部活動補助員の充実	・部活動補助員を現在の約2倍の15名程度にする。	・部活動指導員を1名増員する。(バスケットボール部)	B	・部活動補助員が15名程度までには至っていない。
15. 管理運営(施設改修・更新・労務他)				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)第2大体育館の冷房化	・第2大体育館1階のアリーナ、及び2階の小体育館AとBにおいて、冷房化が終了している。	・2022年度までに達成済み。	A	・夏季の活動でも快適な状況で実施できている。生徒の安全確保ができています。
16. 情報化教育/ICT				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)ICT教育の推進	・教員全員が、必要に応じてICTを使った授業を自由に、効果的に展開できる。	・全教員がICT機器を活用した授業を実践できる体制を継続する。	A	・教員全員が、ICTを使った授業を実施できるようになっている。
(2)オンライン授業の推進	・教員全員が、長期休業中や臨時休業中に生徒が在宅で効果的に学習できるよう、オンライン授業を展開できる。	・通常時間割に基づいた同時双方向型のオンライン授業へいつでも切り替えられるように準備しておく。	A	・教員全員がオンライン授業を展開できるようになっている。次年度以降は、年2回の全校オンライン授業を導入していく予定である。
(3)今後のオンライン教育のあり方検討	<2020理事長からの問題提起> ・コロナ禍の中、オンライン授業の意義が中高、大短ともに大変重要となってきた。 ・今後、対面授業一本からオンライン授業それぞれの特性を踏まえた新たな授業形態を考え、再整理し、そのもとに情報化教育投資を行う。	・危機管理対応として、いつでも通常時間割に基づいた同時双方向型のオンライン授業ができる体制を継続する。	A	・必要に応じてオンライン授業を実施する体制を維持するとともに、遠隔地や海外とオンラインでつないで交流するなど、柔軟に対応できるようにしている。
17. 新型コロナウイルス感染症関連				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)感染対策の徹底	・通常の学校生活が実現している。	・感染症による臨時休業を発生させない。	B	・通常の学校生活が実現している。

#### 4. 白梅学園清修中学校・中高一貫部

この5年間は本校の最重要課題である財政の健全化にむけて、生徒数確保のための募集対策とともに、財政支出の削減に取り組んできた。また、特色ある教育活動を本校の特色として持続的に発展させるための施策として7つの経営目標を設定し、第2期中期実行計画に移行させていく

##### 【予定通り進捗した主な施策（2月時点）】

###### 1. 英語教育の推進

###### (1) 習熟度別授業の導入（中学生）

英語の習熟度の2極化という学力調査の分析から、本年度より英語の授業を学年習熟度別の授業とした。

###### (2) 国際理解教育

コロナ禍により延期してきた小平市留学生会館の留学生との交流が実施できた。また、来日する海外のミュージカル団体のメンバーのホームステイ先として、生徒の家族が受け入れた。

(3) 中学2年生の国内英語研修の事前指導で、多様性の尊重を目的とした留学生交流を実施した。

(4) 昨年度、海外英語研修（カナダ研修）の実施を見送った高校2年生が、高校1年生に加え、4年ぶりに実施した。

###### 2. 生徒支援

校内委員会で、中学1・2年生を中心に、小学校時代の不登校の状況の把握し、不登校傾向生徒への支援のあり方を検討した。

##### 【実施できなかった主な施策】

###### 1. 生徒の確保

昨年度44名を上回る生徒を確保できなかった。また、小平市、東大和市からの受験生が大きく減少した。

###### 2. 研究活動の推進

生徒の学力向上を目指した授業改善に取り組む。新たに組織した学力向上PL（プロジェクトチーム）を中心に、定期テストと外部模試のデータを分析し、改善策を提起する。

##### 【次年度に向けた課題】

###### 1. 生徒数の確保

受験生の多くは第一希望で受験していることから、今後、学校説明会で学校の魅力をアピールし、受験者を確保することが重要な課題である。

また、一部大手塾からの受験生が減少したことから、ポイントとなる塾訪問先に的を絞った対策を講じる必要もある。

###### 2. 学力向上を目指した教育活動全体の質の向上

学力向上プロジェクトチームを中心に、授業改善に取り組む。

###### 3. 自己実現に向けた生徒指導の充実

校内委員会に白梅学園大学や外部の専門家による助言を得て、課題のある生徒の教育的ニーズに応じた支援を行っていく。

（白梅学園清修中学校 校長 山田 裕）

【主要な事業の報告】

(白梅学園清修中学校・中高一貫部)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

1. 教育活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1) 英語教育の充実	・ All English の授業で「英語を使う環境」を実現する。	・ 個別の課題に応じた学びを実現するために、中学生 1、2 年生段階で英語の「聞く、話す」技能の習熟度別授業を導入する。	B	・ 英語によるコミュニケーションの技能の個人差が顕著となったことから、週 2 時間を習熟度に分けたクラス編成、5 時間を少人数または TT で授業を実施した。
(2) 少人数女子教育	・ 卒業時満足度 100 パーセント	・ 異学年交流の中からロールモデル(あこがれ)をもってキャリアを考える機会とするために、意図的計画的に学校行事を企画する。	B	・ 生徒に「あこがれの先輩」という目標をもたせ、低学年の行事へ取り組む姿勢によい影響をあたえた。
(3) ICT 活用	・ 自らの学びの中で、ICT を効果的に活用する。	・ 高校 1 年生に保護者購入負担によるタブレット端末を所持させ、中学生までに身に付けた学びの道具としての活用を継続する。	B	・ 一人一台のタブレット端末の活用状況は、授業にとどまらず、学校生活の場面で散見された。主体的な活用は進んだ。
<2020 年度追加> (4) 学園の中等教育のあり方検討(中学・高校)	-	・ 中等教育にある課題を共有していく。	C	・ 白梅学園高等学校の授業公開後に実施された教科ごとの分科会に参加した。教科ごとの指導上の課題を改善する動機付けとなった。
2. 研究活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1) 教員の資質向上	・ 「個人内評価」を生かし、生徒のよさや可能性を伸ばす評価を実施する。	・ 「主体的対話的で深い学び」を目指す授業研究 ・ 高等学校学習指導要領改訂に伴う観点別評価の研究	B	・ 中学生の朝学習の時間に、思考力、表現力の向上を図る取組を定着させることができた。
3. 学生・生徒・園児支援の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1) 校内委員会組織の充実	・ 一人一人の生徒の教育的ニーズに応じて適切に支援できる。	・ 集団に不応や不登校傾向にある生徒に対する支援体制をつくる。	B	・ 校内委員会の必要性がますます重要になってきたが、定期的な開催、専門家の参加など、実現できた。
4. 学生・生徒・園児の確保				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1) 募集対策の工夫	・ 全学年在籍生徒数 40 名～60 名	・ 学校 HP やマスコミへの情報提供により、知名度、認知度を上げる広報活動を展開する。	B	・ 年間を通して、学校説明会は昨年度並み変わらずか下回る出席人数であり、募集対策の工夫が有効であったと評価できるが、入学者数は昨年度より減少となった要因を分析し改善を図る。

【主要な事業の報告】

(白梅学園清修中学校・中高一貫部)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

6. 国際交流の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)外国人、留学生との交流	・外国人とも積極的にコミュニケーションを図ることができる。	・「話す・聞く」活動に意欲や関心を持って取り組む環境を整える。	A	・中学2年生の国内英語研修の事前指導の中で留学生交流、ミュージカル劇団(HEART Global)メンバーのホームステイなど、当初計画を超えた交流を図ることができた。
7. 生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)小学生英語教室の実施	・本校での英語教室とオンライン教室を同時発信	・英語科ネイティブ教員の教材を活用した「小学生英語教室」の実施	B	・本年度も小平市教育委員会の後援名義をとり、ホームページ上でオンラインによる小学校英語教室を実施した。
8. 卒業生との連携等の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)同窓会を組織する	・同窓会の設立	・卒業生との連携を、進路説明会や学校説明会の講演でつないでいき、各卒業年時の卒業生との関係を維持強化していく。	B	・学校説明会9回中、8回にわたり、各年度の卒業生から話を聞く機会を設け、卒業生各世代とのつながりを保つことができた。
9. 働き方・仕事の仕方の見直し				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)学校運営組織の強化	・専任と常勤の職員の業務と責任の明確化	・各分掌の主任を務める常勤講師の権限と責任を明確にする。	C	・2024年度以降、人事上の課題の改善に向けて、年々努めていく。
10. 建学の精神の高揚				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)建学の精神を時代のニーズで捉える。	・時代のニーズに応じた育てたい生徒の姿を明確にする。	・6年間一貫教育の3ポリシーを明確に広報する。	B	・高大連携協定を津田塾大学と締結できたことにより、女子教育の魅力を生かした取り組みを企画していく。
13. 財政再建計画				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)入学生徒の確保	・入学生徒の40名確保 ・学校運営経費のスリム化	・教育活動に係る保護者負担金ヘシフトさせる支出項目を精査する。	C	・2024年度入学確定数30名、必達目標としていた昨年の44名を14名下回る結果となった。

## 【主要な事業の報告】

(白梅学園大学／大学院／短期大学)

【年間評価（成果）】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)意思決定と権限の明確化	・専任教員が各分掌主任となって責任を明確にする。	・各校務分掌の部長は責任を自覚するとともに、各分掌主任に対する指導と助言に責任をもつ。	B	・学校の教育活動の進捗状況の把握、課題の改善等、毎週約1時間の部長会にはほぼ定着している。
16. 情報化教育/ICT				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)今後のオンライン教育のあり方の検討	・タブレット端末を使った新しい授業の創造	・高校2年生までの生徒一台タブレット端末の活用を定着させる。	A	・10月、1月に2回、オンライン授業の実施検証を行い、効果的な授業の研究に取り組んだ。 ・生徒の学力向上、教員の教務事務の効率化などの観点から、タブレット端末の活用の可能性を追究していく。
17. 新型コロナウイルス感染症関連				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)学校における「新しい生活様式」の確立	・感染防止へ対応した学校の生活習慣を確立する。	・健康安全について、自ら考え、判断し、行動する資質・能力を育てる。	A	・コロナ感染の影響を受けることなく、学校行事を実施できた。

## 5. 白梅学園大学附属白梅幼稚園

概ね順調に事業を進められた。自由遊びを中心とする子ども自ら遊ぶ幼児教育の実践を行い、その研究を推し進めた。

### 【予定通り進捗した主な施策】

#### 1. 保育環境の最適化に向けた改善

全教員で環境会議を開き、互いの保育室環境を見合いその構成を検討し、課題を可視化するなど積極的に改善を図った。また、物理的環境の整備も順調に進んだ。シェード付オーニングが設置され、園児の遊びや生活を安全に行えるほか、雨天時の参観者受け入れが可能となった。ソニーの教育助成金を活用して、長年の懸案だった壁付大型収納棚を設置し直した。園庭ワークショップによる園庭遊具等の制作と改修が進んだ。

#### 2. 先進的な幼児教育の研究の推進

文部科学省研究開発学校の指定を受け、小平市立小平第一小学校とともに、幼小一体的なカリキュラムの開発を進めた。2022年度ソニー幼児教育支援プログラム最優秀園受賞に伴う実践発表会を開催し、成果発表と研究交流を行い、新たな課題を得た。

#### 3. 保護者活動の支援

保護者による諸活動が活発化し、その支援を行った。うめのみまつりやコンサート、こま回しなど保護者による企画の実施を支援し、いずれも成功裡に終了した。絵本サークルによる読み聞かせは園庭開放と連動させ、未就園児とその保護者の参加を可能とした。

#### 4. 募集広報への保護者参加

募集広報において、保護者間の「口コミ」を重視し、保護者の協力を得て進めた。入園説明会では保護者に講話と質疑応答に対応していただいた。茶話会や民間の就園フェアで、園関係者が関与しないかたちで信頼できる情報を提供いただいた。

#### 5. 2歳児クラスの利用利便性の改善

幼稚園裏の駐車スペースを得て、自家用車による通園が可能となり、利用者確保した。翌年度の募集において、説明会に加え、体験会を新たに実施した。

#### 6. 園史関係資料の研究課題化

園史関係資料の整理と保存が課題であったが、大学・短大子ども学研究所の研究助成課題の採択を得て、口述著作物のアーカイブ化を開始することができた。

### 【実施できなかった主な施策】

#### 1. Webサイトの再構成と更新

他園において近年、Webサイトがリニューアルされ、サイト全体を通してイメージ戦略が図られている。本園は学園のシステムのフレーム内でサイト構築することになり、他園に対抗可能なサイトにするには知恵と工夫を要する。

### 【次年度に向けた課題】

#### 1. 持続可能で包括的な広報体制の構築

#### 2. カリキュラム評価、学校評価等、評価方法の開発や工夫

#### 3. 保護者ボランティアの導入

(白梅学園大学附属白梅幼稚園 園長 本山 方子)

【主要な事業の報告】

(白梅学園大学附属白梅幼稚園)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

1. 教育活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)子ども自ら遊ぶ幼児教育の実践	・保育の内容に関する研究を進め、白梅の理念を実行し、目指す子ども像を実現していく。	①自由遊びを主とする子ども自ら遊ぶ保育を実施する。カリキュラム・マネジメントにより、日々の保育や行事等を振り返り、年齢に応じた保育を更新する。	A	①自由遊びを主とする子ども自ら遊ぶ保育を実施している。週1回のカリキュラム会議、月1回の園内研究会等を中心に、カリキュラム・マネジメントを行い、保育を更新した。
(2)大学・短大の教育・研究との連携・協力の強化	・大学附属として、大学・短大と連携・協力を積極的に図り、互いの教育・研究に貢献する。	①大学・短大の教育実習生を受け入れ、保育者養成教育に貢献する。 ②大学・短大の授業やゼミ等と連携・協力し、園児及び学生の諸活動の充実を図る。 ③大学・短大で開講する授業等に対し、参観の場の提供や、幼児教育実践や保育職に関する話題提供などを通して協力を行う。	A	①大学・短大の教育実習生について、1学期に9名、2学期に4名を受け入れ、保育者養成教育に貢献した。心理実習については、実習生1名を受け入れ、保育カンファレンスに協力した。 ②大学・短大の授業やゼミにおける本園利用について、前期と後期の2回募集を行った。3件の協力依頼の申請があり、いずれも承認した。 ③その参観依頼に応え、子ども学科、発達臨床学科、短大保育科の学生に保育参観の場を提供し、園への質疑に回答した。大学子ども学科と発達臨床学科の教育実習指導において、本園教員が講話を行った。子ども学科の学士力オリエンテーションにおいて、本園教員が保育職の実際等について話題提供を行った。以上を通して、大学・短大の教育に協力を行った。
2. 研究活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)子ども自ら遊ぶ幼児教育の研究	・保育の内容に関する研究を進め、白梅の理念を実行し、目指す子ども像を実現していく。	①毎月、園内研究会や合同カリキュラム会議等を実施し、子どもの育ちと保育のありようについて協議し、実践研究やカリキュラム開発を推進する。 ②公開保育研究会の開催などを通して研究成果を公表するとともに、他園の参観を通じた研修を進め、他園の保育者等との交流を図る。	S	①毎月、園内研究会や合同カリキュラム会議等を実施し、実践研究やカリキュラム開発を推進した。 ②「臨場感をかたちづくる」ことをテーマに、12月2日に実践発表会を開催した。 ③6月にソニー幼児教育支援プログラム2022年度最優秀園を受賞した奈良市立伏見こども園の実践発表会に教員9名が参加し、探究を進める保育について研修を行った。 ④他市や海外の参観や視察を受け入れ、幼児教育関係者との交流を図った。

【主要な事業の報告】

(白梅学園大学附属白梅幼稚園)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

<p>(2)保育環境の最適化の研究</p>	<p>・保育の内容に関する研究を進め、白梅の理念を実行し、目指す子ども像を実現していく。</p>	<p>①教員自らの保育の構想に応じて、保育室内のものの配置を見直し、可変的で衛生的な保育環境を構成する。 ②室内外に配置されたものの傷みや安全性等を点検し、必要に応じて修理や更新を行う。 ③環境会議を開催し、教員相互に環境構成を実地で学び合う。 ④園庭ワークショップを実施し、園庭や屋外の保育環境について最適化を図る。</p>	<p>A</p>	<p>①教員自らの保育の構想に応じて、随時、環境を見直し、更新を行った。 ②室内外に配置されたものの傷みや安全性等を点検し、園庭遊具などを修繕し、保育室の壁付け大型収納棚をソニーの教育助成金で更新し、収納量を高め、安全な収納を可能とした。 ③環境会議について年間5回開催し、教員相互に環境構成を実地で学び合った。 ④園庭ワークショップについて、保護者の協力を得て8月に実施し、園庭遊具の修繕と制作を行い、保育環境の最適化を図った。</p>
<p>(3)大学・短大の教育・研究との連携・協力の強化</p>	<p>・大学附属として、大学・短大と連携・協力を積極的に図り、互いの教育・研究に貢献する。</p>	<p>①大学・短大の研究・調査に協力し、その成果についてフィードバックを受ける。 ②幼稚園が推進する研究について、大学・短大の教員から指導・助言や援助を受けてさらなる充実と改善を図る。 ③大学と幼児教育懇談会を開催し、幼稚園の課題や、大学・短大の教育・研究の受け入れなどについて検討を行う。</p>	<p>A</p>	<p>①大学・短大の研究・調査について、協力依頼が3件あり、いずれも承認した。昨年協力した研究1件について、成果発表にあたりフィードバックがあった。 ②実践発表会の開催や文部科学省研究開発学校の研究について、大学・短大の教員から指導や助言をいただき、研究の推進に向けて活用した。 ③大学と幼児教育懇談会を2回開催し、大学・短大の授業利用や研究の受け入れなどについて検討を行い、助言を得た。</p>

3. 学生・生徒・園児支援の推進

施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
<p>(1)特別に支援を要する子どもの育ちの保障</p>	<p>・保育の内容に関する研究を進め、白梅の理念を実現していく。 ・大学附属として、大学・短大と連携・協力を積極的に図り、互いの教育・研究に貢献する。</p>	<p>①大学の発達・教育相談室と連携して、子育てや発達の相談に対応する。 ②小平市等の巡回相談を活用し、要支援の子どもたちの育ちに関して助言を受け、保育や子ども理解に活かす。 ③クラスの状況に応じて保育補助者を配置し保育の充実を図り、クラスの子どものための集団かつ個の育ちを促す。</p>	<p>A</p>	<p>①大学の発達・教育相談室と連携して、保護者からの発達や子育てに関する相談に対応した。 ②小平市等の巡回相談を活用し、要支援の子どもたちの保育と育ちに関して助言を受け、保育や子ども理解に活かした。 ③各クラスに保育補助者を配置し保育の充実を図り、クラスの子どものための集団かつ個の育ちを促した。</p>
<p>(2)学生・生徒ボランティアの導入</p>	<p>・大学附属として、大学・短大と連携・協力を積極的に図り、互いの教育・研究に貢献する。</p>	<p>①保育環境整備や保育補助等について、高校生や大学生・短大生のボランティア等を導入し、学生・生徒の保育経験の充実に貢献する。</p>	<p>S</p>	<p>①保育環境整備や保育補助等について、大学生や白高3年生のボランティアを受け入れた。7月に同高校生徒の協力により、灯りまつりの灯籠の描画を園児が行った。園外保育や実践発表会では大学生にアルバイト等で協力を得た。大学の広報に園児や園施設等で協力を行った。</p>

【主要な事業の報告】

(白梅学園大学附属白梅幼稚園)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

4. 学生・生徒・園児の確保				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1) 2歳児クラスの拡充と保護者支援	・未就園児(2歳児の保育)の保育の内容を見直し、今以上に充実したものにす。	①2歳児クラスについて週1クラス(月曜～金曜の各曜日クラス)と週2クラス(月木クラス、火金クラス)を開室し、内容の充実を図る。 ②いずれの曜日も、自家用車による通園を可能とし、子育ての負担軽減に寄与すると共に、2歳児クラス利用を促進する。 ③2歳児クラスの保護者には、幼稚園主催の講座への参加を可能とするなど、子育て等に関する相談に対応する。	A	①2歳児クラスについて週1クラス(月曜～金曜の各曜日クラス)と週2クラス(月木クラス、火金クラス)を開室し、保育環境を見直し、内容の充実を図った。年間を通じて各曜日18回、延べ90回、開室した。 ②いずれの曜日も自家用車による通園を可能とし、実際に各曜日4台程度の利用があった。通園の負担を軽減させ、2歳児クラス利用を促進した。 ③2歳児クラスの保護者には、幼稚園主催の白梅講座への参加を可能とした。1月に来年度入室の説明会を、2月に体験会を開催した。
(2) 募集対策の強化	・大学附属の強みを未就園児の会や園内イベント等で発揮する。	①入園説明会の構成を工夫し、参加者の十分な理解を促し、疑問に丁寧に答える。 ②入園説明会における提示資料や配付資料を充実させ、終了後への関心の継続やホームページの閲覧を誘う。 ③園庭開放やお話し会等、未就園児対象の企画と連動して、広報の強化を図る。	A	①入園説明会は年間6回実施した。説明会の構成について、園からの説明に加え、在園児の保護者による講話や質疑応答を加えるなど、参加者の疑問に丁寧に答えた。 ②入園説明会において、未就園児向けの企画案内や、在園児保護者作成の「おかあさん新聞」などの資料を配付するなど、本園への関心の継続やホームページの閲覧、LINE公式アカウントへの登録を誘った。 ③LINE公式アカウントの有料化に対応し、未就園児対象企画と連動して情報発信を行うなど、広報の強化を図った。また、在園児保護者の協力を得て、入園説明会での講話や質疑応答、茶話会の開催を行うなど、保護者目線の情報提供をいただいた。
5. 学園広報の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1) 紙媒体による広報活動の充実	・保育の内容に関する研究を進め、白梅の理念を実行し、目指す子ども像を実現していく。	①広報用パンフレットやチラシの作成と配布、園だよりの発行などを通して、園内外に本園の保育の実際を広報する。 ②ドキュメンテーションの作成と掲示や、クラスだよりの発行などを通して、子どもの様子や育ち、活動の見通しを保護者に広報する。	A	①幼稚園ガイドブックとチラシ(入園説明会、未就園児企画)を作成し、配布を行った。3月に園だよりを発行した。 ②随時、ドキュメンテーションの作成と掲示や、クラスだよりの発行などを行い、子どもの様子や育ち、活動の見通しを保護者に広報した。 ③日本教育新聞や『保育ナビ』などいくつかの媒体で本園の実践が紹介された。

【主要な事業の報告】

(白梅学園大学附属白梅幼稚園)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

<p>(2) ネットワーク環境の活用による広報活動の充実</p>	<p>・保育の内容に関する研究を進め、白梅の理念を実行し、目指す子ども像を実現していく。</p>	<p>①ホームページについて、全面的にリニューアルし、随時の情報更新によって園内外への広報を行う。 ②さくらシステム等 Web 環境を利用して、在園児や未就園児の保護者等に幼稚園のイベント等について広報を行う。</p>	<p>A</p>	<p>①ホームページについて、研究活動のメニューを増やすとともに、リニューアルに向けて準備を進めた。 ②SNS やホームページ、さくらシステムを利用して、在園児や未就園児の保護者等に幼稚園のイベント等について広報を行った。</p>
<p>7. 生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進</p>				
<p>施策名</p>	<p>中期計画の全体像</p>	<p>2023 年度(中期計画 5 年目(最終年度))の達成目標</p>	<p>年間評価</p>	<p>2023 年度(中期計画 5 年目(最終年度))の達成状況(総括)</p>
<p>(1) 未就園児対象の保育や企画の実施</p>	<p>・大学附属の強みを未就園児の会や園内イベント等で発揮する。 ・地域の方々との信頼関係を築き、地域密着の幼稚園とする。地域の子育てのセンター的役割を果たす。</p>	<p>①2 歳児クラスを開室して、未就園児保育を実施する。 ②園庭開放やお話し会、幼稚園であそぼう、体験入園などの未就園児対象の企画を実施する。</p>	<p>A</p>	<p>①2 歳児クラスを開室して、未就園児保育を実施した。年間通じて各曜日 18 回、延べ 90 回の開室を行った。駐車場利用は希望者全員に提供した。 ②未就園児対象企画として、年間通じて園庭開放 10 回、おはなし会 2 回、あそぼう会 3 回、一日体験入園 1 回を実施した。</p>
<p>(2) 預かり保育の充実</p>	<p>・保護者のニーズの高い預かり保育の内容を検討し、保護者のニーズと子どもにとっての有意義な預かり保育を目指していく。</p>	<p>①預かり保育について、随時、環境の見直しと内容の工夫を行い、長期休業中を含め通年で実施する。 ②午睡やおやつ、保育室利用などにおいて、新型コロナウイルス感染に対して十分な予防対策を行う。</p>	<p>A</p>	<p>①預かり保育について、随時、環境の見直しと内容の工夫を行い、長期休業中を含め実施した。おやつについては、追加の予算配分を受け、年長児を中心に内容を充実させた。 ②午睡やおやつ、保育室利用などにおいて、新型コロナウイルスやインフルエンザの感染に対して十分な予防対策を行った。</p>
<p>(3) 保護者対象企画の開催や保護者活動の支援</p>	<p>・大学附属の強みを未就園児の会や園内イベント等で発揮する。 ・これまで以上に信頼される白梅幼稚園を目指し、保護者の意見を反映した園の在り方を考えていく。</p>	<p>①大学・短大などと連携して、保護者対象の講座やこまサロン(子育てサロン)を開催する。 ②PTA(梅の実会)や保護者によるサークル活動、保育参加活動などの保護者活動を支援する。</p>	<p>A</p>	<p>②梅の実会や保護者によるサークル活動、保育参加活動など保護者活動を支援した。6月に白梅講座を実施した。梅の実会については、運営委員会や総会の開催、随時のサークル活動や実行委員会活動、保育参加などの保護者活動(絵本読み聞かせ、うめのみまつり、こままわし企画、コンサート企画、シャボン玉企画等)の実施を支援した。8月の園庭ワークショップに、保護者の参加を得て、園庭の遊具や施設の制作と改修を行った。</p>
<p>(4) 地域や近隣諸機関との交流の推進</p>	<p>・近隣大学や関係諸機関(武蔵野美術大学、公民館、高校、区立中学校、区立小学校)との連携を強化し、子どもたちの多様な体験を実施する。</p>	<p>①小平第一小学校と交流活動などの幼小連携を行い、幼小一体的な教育課程の研究開発を行うほか、地域や近隣の諸機関の協力を得て、園児の活動の充実を図る。</p>	<p>A</p>	<p>①文部科学省研究開発学校に小平市立小平第一小学校と共に指定され、研究開発課題「幼小移行期において生活の発見と交流を通して問題解決を図り、しなやかで粘り強い思考力・対話力・実行力を育み、「探究」を自律的に深化させる、幼小一体的な教育課程の研究開発」に取り組んだ。研究開発委員会、運営指導委員会の開催のほか、一小と本園の全教員が一堂に会し、合同研究会を開催した。一小教員と本園教員が相互に実践の参観を行った。1年次の成果を実施報告書に取りまとめた。</p>

【主要な事業の報告】

(白梅学園大学附属白梅幼稚園)

【年間評価(成果)】S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

8. 卒業生との連携等の推進				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)卒業生、保護者OBとの連携	・これまで以上に信頼される白梅幼稚園を目指し、保護者の意見を反映した園の在り方を考えていく。	①同窓会の開催などによる卒業生との交流や、保護者OBとの交流を通して、園の課題を認識し、園の教育への支援を得る。	A	①9月第一土曜日に、小学1～3年生を対象に同窓会を開催し、卒業生や保護者OBとの交流を行った。同窓会の持ち方を改善した。卒業生による広報協力のあり方について、課題を得た。
9. 働き方・仕事の仕方の見直し				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)業務の再編と相互連携	・教職員が互いに学ぶ職場を形成するとともに、業務内容を的確に遂行し、園の管理運営に貢献する。	①園の業務の透明化を行い、それぞれの業務の相互理解を深め、教職員間の連携協力を推進する。	A	①園の業務の透明化を行い、それぞれの業務の相互理解を深め、教職員間の連携協力を推進した。
10. 建学の精神の高揚				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)園史関係資料の収集	・学園の建学の精神に基づき、大学附属園としての歴史と実績をふまえてブランド力を高める。	①大学・短大の教員などの助言を受け、園史関係資料の収集を進め、園内の保存資料の整理を進める。	A	①園史関係資料のうち音声記録について、大学・短大の教員による文字記録化と分析に協力を行った。子ども学研究所研究助成課題「久保田浩の口述著作物のアーカイブ化とその活用可能性」に協力した。
11. 令和充実5ヵ年年計画・80周年記念事業				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)大学附属園としての実績の明確化	・学園の建学の精神に基づき、大学附属園としての歴史と実績をふまえてブランド力を高める。	①園の沿革や大学・短大附属園としての実績のとりまとめを進め、80周年記念事業を推進する。	A	①園の沿革や実績について、園のWebサイトに掲載する原稿を準備した。
14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)教員組織の機能強化	・教職員が互いに学ぶ職場を形成するとともに、業務内容を的確に遂行し、園の管理運営に貢献する。	①園務分掌や担当業務を明確化するとともに、相互の連絡・報告を緊密に行い、互いの業務の理解を深め、意思決定の迅速化を図り、透明性を高める。	A	①園務分掌や担当業務を明確化し、相互の連絡・報告を緊密に行い、互いの業務の理解を深め、意思決定の迅速化を図り、透明性を高めた。

【主要な事業の報告】

(白梅学園大学附属白梅幼稚園)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

15. 管理運営 (施設改修・更新・労務他)				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)各種施設の改修	・保育の内容に関する研究を進め、白梅の理念を実行し、目指す子ども像を実現していく。	①安全面や公衆衛生面、幼児の生活の場としての最適化の観点から、設備や施設について改修や更新を図る。	A	①安全面や公衆衛生面、幼児の生活の場としての最適化の観点から、設備や施設について改修や更新を図った。保育室用の低層棚を入れ替え、活用している。旧園舎の1階にシェード付のオーニングを設置し、雨天時の吹込みや直射日光を防止することが可能となった。傷みの見られた園庭の遊具について設置しなおした。保育室の壁付大型収納棚をソニーの教育助成金で更新し、収納量を高め、安全な収納を可能とした。
16. 情報化教育/ICT				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)ICTシステムの十全な活用	・ICTについて、十全に活用し、保護者との情報共有や広報を円滑化することによって保育理解を促進するとともに、効果的な活用によって保育活動の充実を図る。	①さくらシステムについて、保護者との緊密な連絡や情報共有、諸活動の広報に活用する。 ②さくらシステムの活用により、事務の効率化を図る。 ③ホームページの全面リニューアルによって、保護者への広報の強化を図る。 ④各種メディアについて、保育場面において効果的な活用を図る。	A	①さくらシステムについて、保護者との緊密な連絡や情報共有、諸活動の広報に活用した。全体への周知が必要な、梅の実会等による諸連絡にも活用した。 ②さくらシステムの活用し、出欠席把握等を確実にを行った。 ③ホームページのメニューを見直し、保護者への広報と利便性の強化を図った。 ④タブレットやモニター、デジタルカメラ等を遊びや保育の振り返り等に活用し、遊びの深化に役立てた。
17. 新型コロナウイルス感染症関連				
施策名	中期計画の全体像	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成目標	年間評価	2023年度(中期計画5年目(最終年度))の達成状況(総括)
(1)徹底した感染予防	・子ども自ら感染予防に関する習慣を身につけ、健康に対する意識をもつようにする。 ・園生活において感染予防策を徹底し、保育の方法を工夫し、保護者との情報共有を十分に行う。	①教職員の感染予防を徹底するとともに、遊具や用具を含めた保育環境の衛生管理に努める。 ②保育や昼食における幼児同士の接触について、感染予防の点から最大限の留意を行う。 ③保護者への情報提供と、保護者との情報共有を十全に行い、園児や保護者の安全を守る。	A	①教職員の感染予防を徹底するとともに、遊具や用具を含めた保育環境の衛生管理に努めた。 ②保育や昼食における幼児同士の接触について、感染予防の点から最大限の留意を行った。 ③保護者への情報提供と、保護者との情報共有を十全に行い、園児や保護者の安全を守った。

## [IV]財務の概要

### 1. 決算の概要

2023年度は、予算編成方針に基づき財政再建策を実行し、大短新棟のための建築資金確保に備え減価償却引当特定資産及び第2号基本金へ計2億4,400万円の繰入れを行った。建築資金の期末残高は9億2,500万円となった。

当年度の資金収入は36億1,100万円、資金支出は37億700万円で単年度の資金収支差額は9,600万円の支出超過となった。事業活動収支では収入合計30億300万円に対して支出合計が29億6,700万円、基本金組入前当年度収支差額は予算比4,400万円改善し3,500万円の収入超過となった。その内訳は、教育活動収支差額が600万円の収入超過、教育活動外収支差額が300万円の収入超過、特別収支差額が2,700万円の収入超過となった。

学園全体で経費縮減に努めたこと、80周年記念事業のための寄付金収入が増加したことにより当年度収支は予算と比べ改善した。予算編成段階において「マイナス予算は組まない」ことを厳格に実行したことも功を奏していると考えられる。

### 2023年度 重点予算一覧

政策的に重視する項目について重点予算を組んだ。概ね計画どおり実行した。

部門	重点施策	予算	決算	差異
大学 短大	2024年度 大学・短大改組に向けた募集対策費用	1,000万円	1,500万円	500万円

百万円未満は四捨五入

## 2. 収支状況

### (1)事業活動収支

事業活動収支は、①教育活動収支、②教育活動外収支、③特別収支の3項目から構成されている。

#### ① 教育活動収支

教育活動収支の「収入の部」では、主な収入である「学生生徒等納付金」は、入学者数の減少等により予算比3,200万円減少し19億2,600万円となった。「手数料」収入は、受験者数減少による入学検定料の減少により、予算比1,000万円減少し2,600万円となった。「寄付金」収入では80周年記念事業募金に多くのご寄付をいただき3,100万円となり予算比2,100万円増加した。「経常費等補助金」は9億1,800万円となり予算比900万円増加した。高校及び幼稚園部門の補助金増加2,500万円、大短部門の経常費補助金減少1,700万円によるものである。「付随事業収入」は1,500万円となり予算比500万円増加、「雑収入」は退職金に対する交付金増加に伴い、予算比900万円増の4,800万円となった。「教育活動収入計」は、学納金収入が減少したものの特別寄付金収入が増加したため、予算比300万円増加し29億6,400万円となった。

教育活動収支の「支出の部」では、「人件費」は休職者等に伴う減少と退職者数増に伴う退職金増加により予算比300万円増加の19億7,200万円となった。「教育研究経費」は大学の学科改組に伴う追加の募集対策費やネットワーク整備など当初予算外の支出対応がありながらも、学園全体で経費縮減に努めたことにより、予算比4,500万円減少し8億3,200万円となった。光熱水費は1,200万円減少、奨学金は奨学生の減少等により2,200万円減少、修繕費は施設整備計画の変更

で700万円減少した。その結果、「教育活動収支差額」は、予算比3,400万円改善し600万円の収入超過となった。

## ② 教育活動外収支

「教育活動外収支」は、「収入の部」「支出の部」とともに大きな増減はなく、教育活動ならびに教育活動外収支を合わせた「経常収支差額」は900万円の収入超過となった。

## ③ 特別収支

「特別収支」は、「収入の部」では、80周年記念事業募金により施設設備寄付金が増加し予算比1,500万円増加した。「支出の部」では図書処分、備品棚卸し実施及び経年備品の計画処分により資産の除却900万円を計上した。経年備品の計画処分とは、過去1996年度～2004年度を取得年度とする固定資産・備品のうち、実在性が極めて乏しいと判断できる備品を2020年度より5年かけて計画的に除却処理をするものである。経常収支差額に特別収支差額を合わせた「基本金組入前当年度収支差額」は予算比4,400万円増加し、3,500万円の収入超過となった。

「基本金」は、第1号基本金4,900万円、第2号基本金1億5,000万円、第3号基本金17万円を組入れた。第1号基本金では、上記に記載した経年備品の計画処分等により、実在性が極めて乏しい備品2,400万円の取崩し、及び備品棚卸し実施等における物品廃棄による取崩し2,000万円を行った。

この結果、基本金組入後の「当年度収支差額」は、予算比1,500万円改善し1億6,400万円の支出超過となり、翌年度繰越収支差額は44億1,700万円の支出超過になった。

## (2) 貸借対照表

### ① 資産の部

貸借対照表の「資産の部」では、新規に完成した建物はなく、既存建物等の減価償却により「有形固定資産」が対前年度末比1億3,700万円減少した。「特定資産」では退職給与引当特定資産等に加え、将来の建物建築に備える減価償却引当特定資産及び第2号基本金を繰入れ、2億3,300万円増加し13億6,700万円となった。その結果「固定資産」は8,900万円増加し56億6,400万円となった。「流動資産」は、現金預金が9,600万円減少し全体で1億4,100万円減少、9億8,900万円となった。

固定資産、流動資産をあわせた「資産の部合計」では、対前年度末より5,200万円減少し、66億5,200万円となった。

### ④ 負債の部

「負債の部」では、借入金の返済に伴い2,300万円減少、入学者数の減少に伴い前受金が6,200万円減少、全体で12億4,900万円となった。

「基本金」残高は98億2,000万円で「繰越収支差額」（翌年度繰越支出超過額）は44億1,700万円となり、両者を合わせた「純資産の部合計」（自己資金）は3,500万円増加し54億300万円となった。

### (3) 資金収支

資金収支においては、2023 年度を通じて行った諸活動に対応するすべての資金の動きを網羅している。「収入の部」では、当年度の収入は 36 億 1,100 万円となった。収入合計では、前年度繰越支払資金の 9 億 6,700 万円を加え、45 億 7,800 万円となった。

「支出の部」では、当年度支出は 37 億 700 万円となり、翌年度繰越支払資金は 8 億 7,200 万円となった。

活動区分資金収支計算書では、資金収支計算書に記載される資金収入及び資金支出の決算額を①教育活動、②施設整備等活動、③その他の活動に区分して記載する。

#### ① 教育活動

教育活動による資金収支について、学納金・経常費補助金等の教育活動資金収入計は 29 億 6,400 万円、人件費・教育研究経費・管理経費の教育活動資金支出計は 27 億 3,600 万円となり、差引き 2 億 2,800 万円の収入超過となった。ここから前受金、未収入金等調整勘定を差引きし、教育活動資金収支差額は 2 億 2,200 万円の収入超過となった。

#### ② 施設整備等活動

施設整備等活動による資金収支について、施設整備等活動資金収入計は 4,900 万円となった。減価償却引当特定資産取崩収入 1,800 万円は、第二大体育館防水塗装等の支払に対応するものである。施設設備等活動資金支出計は、3 億 1,400 万円となる。このうち、2 億 4,400 万円は、財政再建策に基づく賞与の見直し等分であり、大短新棟のための建築資金として、減価償却引当特定資産及び第 2 号基本金に繰り入れている。差引き 2 億 6,500 万円の支出超過となり、ここから、未収入金等の調整勘定を差引きし、施設整備等活動資金収支差額は 2 億 7,500 万円の支出超過となった。

#### ③ その他の活動

その他の活動による資金収支について、借入金収入・利息等の収入計は 6 億 1,500 万円、借入金返済・貸付金等の支出計は 6 億 5,800 万円となり、その他の活動資金収支差額は 4,300 万円の支出超過となった。

上記より、当年度の支払資金減少額 9,600 万円となり、前年度繰越支払資金に加えると、翌年度繰越支払資金は 8 億 7,200 万円となった。

(4) その他

① 部門別 施設設備支出主な一覧

部門	内 容		予算	決算	差異
大学・短大	ICT	講義室 AV 設備 基幹システムのカスタマイズ 構内ネットワーク設備	1,000 万円	4,500 万円	3,500 万円
白高・清修 共通	ICT	総合型校務支援システム再構築) 保護者用ポータルサイトの構築・ 入試システム 中学生端末の追加	1,000 万円	1,100 万円	100 万円
清修	施設	ガス空調機リース	500 万円	400 万円	△100 万円
幼稚園	施設	施設設備の改修	400 万円	400 万円	—
学園共通	施設	E 棟外壁塗装屋上防水工事 2,100 万円のうち 1,500 万円のみ 500 万円は減価償却特定資産より取崩	1,500 万円	1,500 万円	—
	ICT	勤怠管理システムの導入 総合認証基盤整備 サーバリソース追加整備 マルウェア対策 等	3,700 万円	3,900 万円	200 万円
		合計	8,100 万円	11,800 万円	3,700 万円

百万円未満は四捨五入

② 減価償却引当特定資産取崩し一覧

部門	内 容		予算	決算	差異
大学 短大	改修積立 より 取崩し	第二大体育館防水塗装 (前期より継続事業)	1,000 万円	1,000 万円	—
中学 高校		E 棟外壁塗装屋上防水工事 (2,100 万円のうち 500 万円)	500 万円	500 万円	—
学園全体		防火設備の更新	200 万円	200 万円	—
学園 全体	大短新棟 積立より 取崩し	コンストラクションマネジメント費用	1,500 万円	0*	△1,500 万円
		合計	3,300 万円	1,800 万円	△1,500 万円

百万円未満は四捨五入

\*大短新棟のコンストラクションマネジメント費用は、積立金を取崩さず創立 80 周年記念事業募金による寄付金より支払

### ③ 寄付金一覧

寄付内容	金額	備考
施設設備、教育研究用の機器の整備・拡充	165 万円	
白梅学園未来基金	17 万円	累積額：7,146 万円
特別寄付 創立 80 周年記念事業募金	5,373 万円	白梅学園大学短期大学後援会 4,000 万円 理事長 井原徹 300 万円 他
特別寄付 白高インターハイ出場への活動支援	211 万円	
白梅高等学校吹奏楽部活動支援	28 万円	
特別寄付 白梅祭・卒業祝賀会支援	100 万円	白梅学園大学短期大学 後援会
施設の改修 (J 棟トイレ)	94 万円	白梅学園大学短期大学 後援会
(F 棟トイレ)	105 万円	白梅学園大学短期大学 学生会
白高多目的ホールプロジェクター設置	72 万円	白梅高等学校 同窓会
学生活動支援 (生徒園児への活動支援および フードパントリー運営支援等)	115 万円	理事長 井原徹
(フードパントリー運営支援等)	10 万円	学外理事・学園関係者
合計	6,290 万円	

### ④ 大短新棟のための建築資金 年度末累計額

年度	繰入額	取崩額	年度末 累計額 (第 2 号基本金含)	備考
2017 年度決算	1 億円	—	1 億円	第 2 号基本金へ繰入
2018 年度決算	1 億円	—	2 億円	第 2 号基本金へ繰入
2019 年度決算	1,400 万円	—	2 億 1,400 万円	減価償却引当特定資産へ繰入
2020 年度決算	1 億 2,300 万円	—	3 億 3,700 万円	減価償却引当特定資産へ繰入
2021 年度決算	1 億 7,700 万円	2,800 万円*	4 億 8,600 万円	減価償却引当特定資産へ繰入
2022 年度決算	2 億 1,200 万円	1,700 万円*	6 億 8,100 万円	減価償却引当特定資産へ繰入
2023 年度決算	1 億 5,000 万円 9,400 万円	—	9 億 2,500 万円	第 2 号基本金へ繰入 減価償却引当特定資産へ繰入

\*大短新棟のための費用／明豊ファシリティワークス等への支払

百万円未満は四捨五入

### 3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

- (1) 上記1のとおり、2023年度決算は、事業活動の中心である教育活動収支差額は600万円の収入超過となり、基本金組入前当年度収支差額は3,500万円の収入超過となった。一方、前年度決算と比較すると、それぞれ1億3,500円減少、1億2,400万円減少している。また、2024年度入学者数は定員充足率74%と減少傾向にあり、一定条件のもと作成した2042年度までの資金見通しでは恒常的に収支マイナスとなるシミュレーションも想定される。中長期的な財政安定化のためには、収入の安定化と支出総額の抑制が急務な状況にある。「学園の中長期での持続的存続・発展」を図るには、教育活動収支差額を改善し教育投資を行っていくことが必要である。今後10年～20年間の情報化教育、老朽化に伴う施設更新、教育環境の整備充実、研究の推進等を行うために、学生生徒園児の募集取り組みとともに徹底した財政の見直しを継続し、人件費・物件費からの資金シフトを行い、教育環境の充実及び研究環境の充実を図っていく。
- (2) 財政再建策による人件費の見直しとして、2020年度より3年かけて毎年賞与を0.5か月削減し2023年度は賞与1.5か月の見直しを実施した。全教職員にとって痛みを伴う見直しである。「今を耐えて未来を築く」という趣旨について、引き続き理解・協力を求めていく。

## 4. 財務諸表

### (1) 資金収支計算書

(単位：百万円)

収入の部			
科目	2023年度 予算	2023年度 決算	差異
学生生徒等納付金収入	1,958	1,926	32
手数料収入	36	26	10
寄付金収入	30	63	△ 33
補助金収入	908	918	△ 9
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	10	15	△ 5
受取利息・配当金収入	2	3	△ 1
雑収入	39	48	△ 9
借入金等収入	1	0	1
前受金収入	387	300	87
その他の収入	661	743	△ 82
資金収入調整勘定	△ 417	△ 432	14
当年度資金収入 ①	3,614	3,611	4
前年度繰越支払資金	1,032	967	65
収入の部合計	4,646	4,578	68

前年度比	
2022年度 決算	増減
1,995	△ 69
30	△ 4
11	52
955	△ 37
2	△ 2
13	2
2	1
107	△ 59
0	0
362	△ 62
654	90
△ 543	111
3,588	23
1,025	△ 58
4,613	△ 35

支出の部			
科目	2023年度 予算	2023年度 決算	差異
人件費支出	1,959	1,949	10
教育研究経費支出	685	639	46
管理経費支出	137	147	△ 11
借入金等利息支出	0	0	0
借入金返済支出	22	23	△ 1
施設関係支出	0	8	△ 8
設備関係支出	19	60	△ 41
資産運用支出	242	251	△ 9
その他の支出	605	704	△ 99
資金支出調整勘定	△ 65	△ 76	11
当年度資金支出 ②	3,605	3,706	△ 101
翌年度繰越支払資金	1,041	872	169
支出の部合計	4,647	4,578	69
当年度資金収支 ①-②	9	△ 96	105

前年度比	
2022年度 決算	増減
2,025	△ 76
593	47
127	21
0	△ 0
22	1
69	△ 61
38	22
238	14
611	93
△ 75	△ 1
3,646	60
967	△ 96
4,614	△ 36
△ 58	△ 37

## (2) 活動区分資金収支計算書

収入の部			
科目	2023年度 予算	2023年度 決算	差異
<b>教育活動による資金収支</b>			
学生生徒等納付金収入	1,958	1,926	32
手数料収入	36	26	10
特別寄付金収入	3	29	△ 27
一般寄付金収入	7	2	5
補助金収入	908	918	△ 9
付随事業収入	10	15	△ 5
雑収入	39	48	△ 9
<b>教育活動資金収入計</b>	<b>2,961</b>	<b>2,964</b>	<b>△ 3</b>
人件費支出	1,959	1,949	10
教育研究経費支出	685	639	46
管理経費支出	137	147	△ 11
<b>教育活動資金支出計</b>	<b>2,781</b>	<b>2,736</b>	<b>45</b>
差引	179	228	△ 49
調整勘定等	59	△ 6	65
教育活動資金収支差額	238	222	16
<b>施設整備等活動による資金収支</b>			
施設設備寄付金収入	20	32	△ 12
施設設備補助金収入	0	0	0
施設設備売却収入	0	0	0
減価償却引当特定資産取崩収入	33	18	16
<b>施設整備等活動収入計</b>	<b>53</b>	<b>49</b>	<b>4</b>
施設関係支出	0	8	△ 8
設備関係支出	19	60	△ 41
第2号基本金引当特定資産繰入支出	150	150	0
減価償却引当特別資産繰入支出	85	96	△ 11
<b>施設整備等活動資金支出計</b>	<b>254</b>	<b>314</b>	<b>△ 60</b>
差引	△ 201	△ 265	64
調整勘定等	△ 9	△ 11	2
施設整備等活動資金収支差額	△ 209	△ 275	66
<b>小計</b> (教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	<b>29</b>	<b>△ 53</b>	<b>82</b>
<b>その他の活動による資金収支</b>			
借入金等収入	1	0	1
有価証券売却収入	0	0	0
奨学金引当特定資産取崩収入	0	0	0
貸付金回収収入	8	9	△ 1
預り金受入収入	500	521	△ 21
立替金回収収入	30	81	△ 51
仮払金回収収入	1	1	0
<b>小計</b>	<b>540</b>	<b>612</b>	<b>△ 72</b>
受取利息・配当金収入	2	3	△ 1
<b>その他の活動資金収入計</b>	<b>542</b>	<b>615</b>	<b>△ 73</b>
借入金等返済支出	22	23	△ 1
第3号基本金引当特定資産繰入繰入資金	2	0	2
退職給与引当特定資産繰入支出	5	5	0
貸付金支払支出	1	1	0
預り金支払支出	500	547	△ 47
立替金支払支出	30	81	△ 51
仮払金支払支出	1	1	0
<b>小計</b>	<b>561</b>	<b>657</b>	<b>△ 96</b>
借入金等利息支払	0	0	△ 0
<b>その他の活動資金支出計</b>	<b>562</b>	<b>658</b>	<b>△ 96</b>
差引	△ 20	△ 43	23
調整勘定等	0	0	△ 0
その他の活動資金収支差額	△ 20	△ 43	23
<b>支払資金の増減額</b> (小計+その他の活動資金収支差額)	<b>9</b>	<b>△ 95</b>	<b>104</b>
前年度繰越支払資金	1,032	967	65
翌年度繰越支払資金	1,041	873	168

(単位：百万円)

前年度比	
2022年度 決算	増減
1,995	△ 69
30	△ 4
5	24
4	△ 2
940	△ 22
13	2
107	△ 59
3,093	△ 130
2,025	△ 76
593	47
127	21
2,744	△ 9
349	△ 121
△ 104	98
245	△ 23
2	30
15	△ 15
0	0
29	△ 11
46	3
69	△ 61
38	22
0	150
217	△ 121
323	△ 10
△ 278	13
43	△ 53
△ 235	△ 40
10	△ 63
0	0
2	△ 2
0	0
11	△ 3
515	5
4	78
1	△ 0
534	78
2	1
536	79
22	1
1	△ 0
20	△ 15
1	△ 1
554	△ 7
6	75
1	△ 0
604	53
0	△ 0
605	54
△ 69	26
0	0
△ 69	26
△ 58	△ 36
1,025	△ 58
967	△ 94

### (3) 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

科目	2023年度 予算	2023年度 決算	差異	前年度比	
				2022年度 決算	増減
<b>事業活動収入の部</b>					
学生生徒等納付金	1,958	1,926	32	1,995	△ 69
手数料	36	26	10	30	△ 4
寄付金	10	31	△ 21	9	22
経常費等補助金	908	918	△ 9	940	△ 22
付随事業収入	10	15	△ 5	13	2
雑収入	39	48	△ 9	107	△ 59
教育活動収入計	2,961	2,964	△ 3	3,094	△ 130
<b>事業活動支出の部</b>					
人件費	1,969	1,972	△ 3	2,032	△ 60
教育研究経費	877	832	45	788	45
管理経費	143	154	△ 11	133	21
徴収不能額等	0	0	0	0	0
教育活動支出計	2,989	2,958	31	2,953	5
教育活動収支差額	△ 29	6	△ 34	141	△ 135
<b>事業活動収入の部</b>					
受取利息・配当金	2	3	△ 1	2	1
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
教育活動外収入計	2	3	△ 1	2	1
<b>事業活動支出の部</b>					
借入金等利息	0	0	0	0	△ 0
その他の教育活動活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0	0	△ 0
教育活動外収支差額	2	3	△ 1	2	1
経常収支差額	△ 27	9	△ 36	143	△ 134
<b>事業活動収入の部</b>					
資産売却差額	0	0	0	0	0
その他の特別収入	21	36	△ 15	18	17
特別収入計	21	36	△ 15	18	17
<b>事業活動支出の部</b>					
資産処分差額	3	9	△ 6	2	7
その他の特別支出	0	0	0	0	0
特別支出計	3	9	△ 6	2	7
特別収支差額	18	27	△ 9	17	10
基本金組入前当年度収支差額	△ 9	35	△ 44	159	△ 124
基本金組入額合計	△ 169	△ 199	30	△ 9	△ 190
当年度収支差額	△ 178	△ 164	△ 14	150	△ 314
前年度繰越収支差額	△ 4,344	△ 4,253	△ 91	△ 4,402	149
翌年度繰越収支差額	△ 4,523	△ 4,417	△ 107	△ 4,252	△ 164
<b>(参考)</b>					
事業活動収入計	2,984	3,003	△ 19	3,115	△ 112
事業活動支出計	2,993	2,967	26	2,956	12

## (4) 貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部			
科目	2023年度末	2022年度末	増減
<b>固定資産</b>	<b>5,664</b>	<b>5,575</b>	<b>89</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>4,281</b>	<b>4,418</b>	<b>△ 136</b>
土地	430	430	△ 0
建物	2,843	2,979	△ 136
構築物	47	53	△ 6
教育研究用機器備品	320	319	1
管理用機器備品	5	6	△ 1
図書	635	630	5
<b>特定資産</b>	<b>1,367</b>	<b>1,134</b>	<b>233</b>
第2号基本金引当特定資産	350	200	150
第3号基本金引当特定資産	92	92	0
退職給与引当特定資産	347	342	5
減価償却引当特定資産	577	499	78
奨学引当特定資産	1	1	△ 0
<b>その他の固定資産</b>	<b>16</b>	<b>24</b>	<b>△ 8</b>
敷金	0	0	△ 0
電話加入権	2	2	△ 0
長期貸付金	14	22	△ 8
<b>流動資産</b>	<b>989</b>	<b>1,130</b>	<b>△ 141</b>
現金預金	872	967	△ 96
未収入金	69	114	△ 45
短期貸付金	8	8	△ 0
有価証券	34	34	△ 0
前払金	0	0	0
立替金	5	6	△ 1
<b>収入の部合計</b>	<b>6,652</b>	<b>6,704</b>	<b>△ 52</b>

負債の部			
科目	2023年度末	2022年度末	増減
<b>固定負債</b>	<b>745</b>	<b>741</b>	<b>4</b>
長期借入金	11	29	△ 19
退職給与引当金	734	711	23
<b>流動資産</b>	<b>504</b>	<b>596</b>	<b>△ 92</b>
短期借入金	19	23	△ 5
未払金	76	75	1
前受金	300	362	△ 62
預り金	110	136	△ 26
<b>負債の部合計</b>	<b>1,249</b>	<b>1,336</b>	<b>△ 87</b>

純資産の部			
科目	2023年度末	2022年度末	増減
<b>基本金</b>	<b>9,820</b>	<b>9,621</b>	<b>199</b>
第1号基本金	9,171	9,122	49
第2号基本金	350	200	150
第3号基本金	92	92	0
第4号基本金	207	207	0
<b>繰越収支差額</b>	<b>△ 4,417</b>	<b>△ 4,253</b>	<b>△ 164</b>
翌年度繰越収支差額	△ 4,417	△ 4,253	△ 164
<b>純資産の部合計</b>	<b>5,403</b>	<b>5,368</b>	<b>35</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>6,652</b>	<b>6,704</b>	<b>△ 52</b>

## 5. 財務状況の推移等

### (1) 資金収支計算書

(単位：百万円)

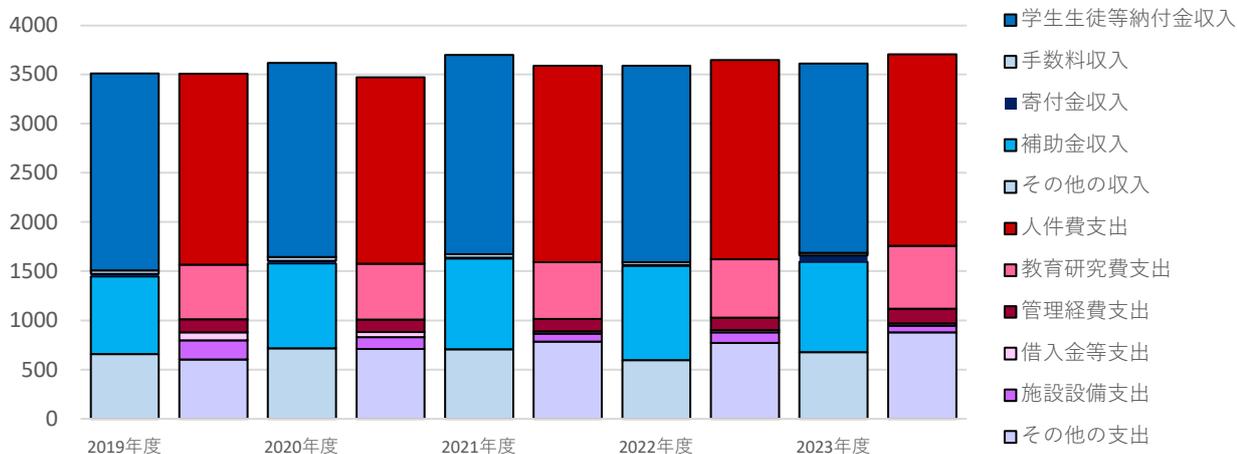
収入の部	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
学生生徒等納付金収入	2,002	1,973	2,024	1,995	1,926
手数料収入	38	38	35	30	26
寄付金収入	25	26	10	11	63
補助金収入	789	864	921	955	918
資産売却収入	1	50	11	2	0
付随事業・収益事業収入	18	10	16	13	15
受取利息・配当金収入	2	2	2	3	3
雑収入	48	43	72	107	48
借入金等収入	1	2	1	0	0
前受金収入	444	447	428	362	300
その他の収入	665	681	717	654	743
資金収入調整勘定	△ 522	△ 520	△ 540	△ 543	△ 432
(当年度資金収入) ①	3,511	3,616	3,697	3,590	3,611
前年度繰越支払資金	766	771	916	1,025	967
<b>純資産の部合計</b>	<b>4,277</b>	<b>4,387</b>	<b>4,613</b>	<b>4,614</b>	<b>4,578</b>

支出の部	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
人件費支出	1,940	1,896	1,996	2,025	1,949
教育研究費支出	554	569	577	593	639
管理経費支出	133	124	127	127	147
借入金等利息支出	2	1	1	0	0
借入金返済支出	81	52	23	22	23
施設関係支出	35	7	32	69	8
設備関係支出	158	114	49	38	60
資産運用支出	44	202	204	238	251
その他の支出	604	544	629	611	704
資金支出調整勘定	△ 45	△ 37	△ 49	△ 75	△ 76
(当年度資金収入) ②	3,506	3,470	3,588	3,646	3,706
翌年度繰越支払資金	771	916	1,025	967	872
<b>純資産の部合計</b>	<b>4,277</b>	<b>4,386</b>	<b>4,613</b>	<b>4,614</b>	<b>4,578</b>

<b>当年度資金収支①-②</b>	<b>5</b>	<b>146</b>	<b>108</b>	<b>△ 56</b>	<b>△ 96</b>
-------------------	----------	------------	------------	-------------	-------------

(単位：百万円)

### 収支計画書の推移

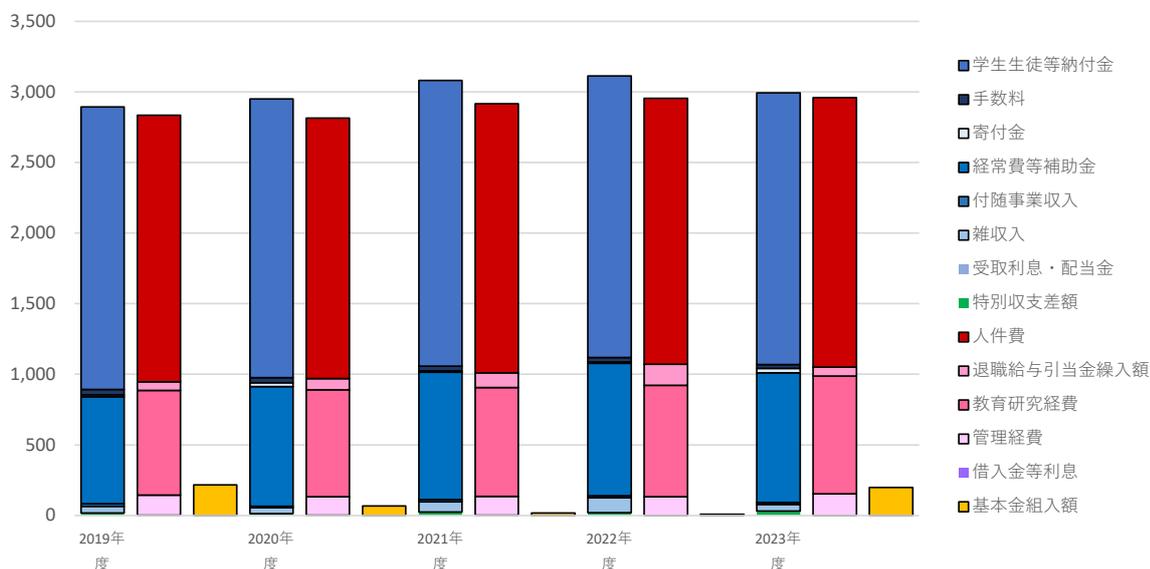


## (2) 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

教育活動収支		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
収入	学生生徒等納付金	2,001	1,973	2,024	1,995	1,926
	手数料	38	38	35	30	26
	寄付金	15	26	9	9	31
	経常費等補助金	757	847	902	940	918
	付随事業収入	18	10	16	13	15
	雑収入	48	43	72	107	48
	受取利息・配当金	2	2	2	2	3
支出	人件費(退職給与引当金繰入額を除く)	1,888	1,844	1,907	1,882	1,907
	退職給与引当金繰入額	61	79	103	150	65
	教育研究経費	742	759	771	788	832
	(うち減価償却費)	(188)	(190)	(194)	(195)	(193)
	管理経費	142	131	134	133	154
	(うち減価償却費)	(9)	(7)	(7)	(7)	(7)
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	借入金等利息	1	1	1	0	0
	<b>経常収支差額</b>	<b>45</b>	<b>125</b>	<b>142</b>	<b>144</b>	<b>9</b>
	<b>特別収支</b>					
収入	資産売却差額	0	0	5	0	0
	施設設備寄付金	10	1	1	2	32
	現物寄付	2	1	1	1	4
	施設設備補助金	32	18	19	15	0
	過年度修正額	0	0	0	0	0
	<b>特別収入計</b>	<b>44</b>	<b>20</b>	<b>25</b>	<b>18</b>	<b>36</b>
	支出	資産処分差額	29	8	3	2
その他の特別支出		0	0	0	0	0
<b>特別支出計</b>		<b>29</b>	<b>8</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>9</b>
<b>特別収支差額</b>	<b>15</b>	<b>12</b>	<b>22</b>	<b>15</b>	<b>27</b>	
基本金組入前当年度収支差額	60	134	167	159	35	
基本金組入額合計	△ 217	△ 68	△ 17	△ 9	△ 199	
当年度収支差額	△ 157	66	150	151	△ 164	
前年度繰越収支差額	△ 4,462	△ 4,619	△ 4,553	△ 4,402	△ 4,253	
基本金取崩額	0	0	0	0	0	
翌年度繰越収支差額	△ 4,619	△ 4,553	△ 4,403	△ 4,252	△ 4,417	

### 事業活動収支の推移



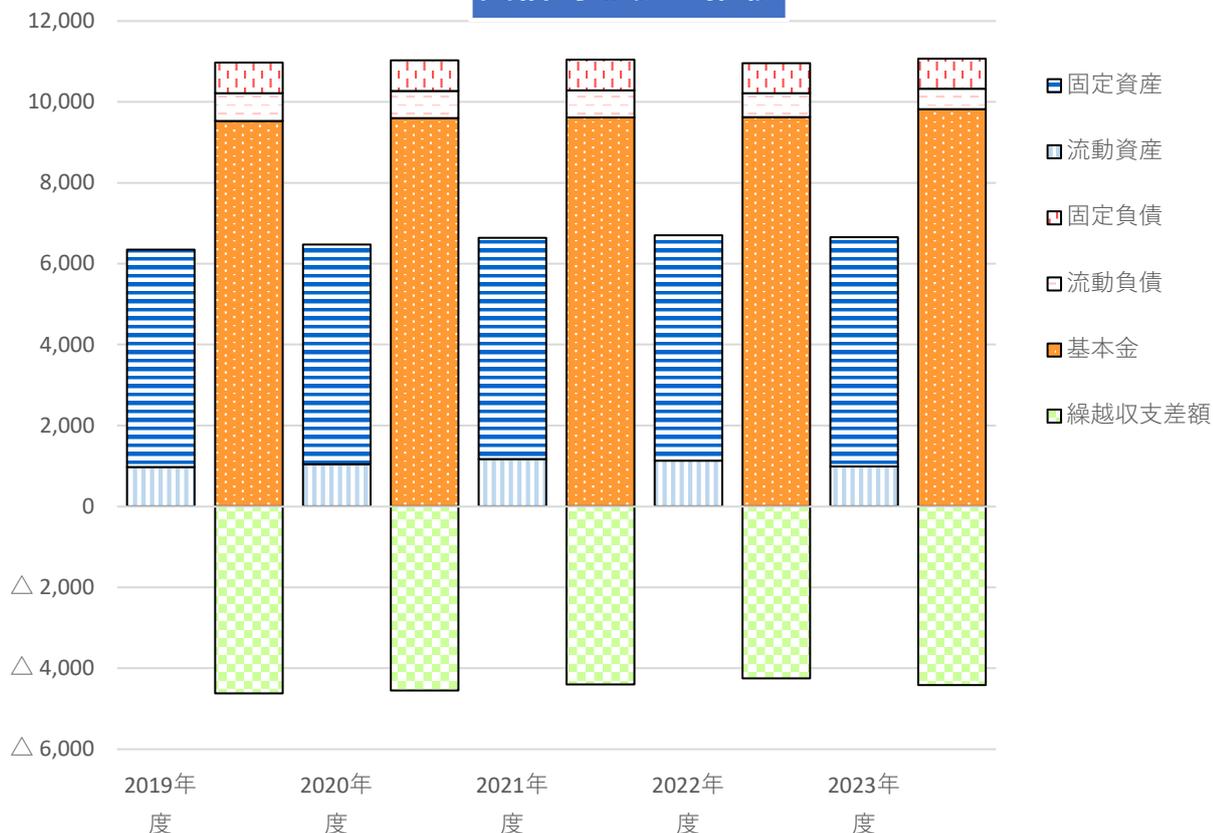
### (3) 貸借対照表

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
固定資産	5,372	5,429	5,469	5,576	5,664
有形固定資産	4,719	4,635	4,513	4,418	4,281
特定資産	599	751	925	1,133	1,367
第2号基本金特定資産	200	200	200	200	350
第3号基本金特定資産	88	89	91	92	92
退職給与引当特定資産	282	302	322	342	347
減価償却引当特定資産	29	157	311	499	577
奨学引当特定資産	-	3	1	1	1
その他の固定資産	55	43	32	24	16
流動資産	976	1,047	1,168	1,130	989
<b>資産の部合計</b>	<b>6,348</b>	<b>6,476</b>	<b>6,638</b>	<b>6,705</b>	<b>6,652</b>
固定負債	757	763	756	741	745
長期借入金	94	73	52	29	11
退職給与引当金	662	690	704	711	734
流動負債	686	672	673	596	504
短期借入金	52	23	22	23	19
未払金	39	37	49	75	76
前受金	444	447	428	362	300
預り金	151	165	174	136	110
<b>負債の部合計</b>	<b>1,443</b>	<b>1,435</b>	<b>1,428</b>	<b>1,336</b>	<b>1,249</b>
基本金	9,526	9,595	9,611	9,621	9,820
第1号基本金	9,032	9,099	9,113	9,122	9,171
第2号基本金	200	200	200	200	350
第3号基本金	88	89	91	92	92
第4号基本金	207	207	207	207	207
繰越収支差額	△ 4,619	△ 4,553	△ 4,402	△ 4,253	△ 4,417
<b>純資産の部合計</b>	<b>4,905</b>	<b>5,041</b>	<b>5,210</b>	<b>5,368</b>	<b>5,403</b>

(単位：百万円)

### 貸借対照表の推移

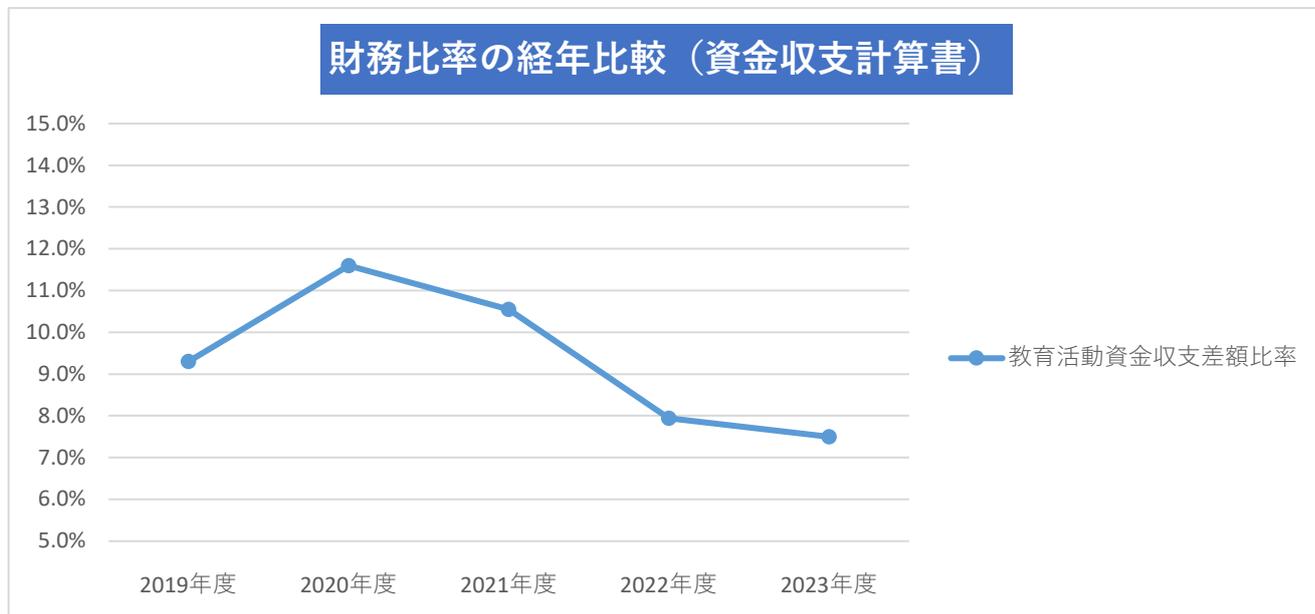


## 6. 主な財務比率比較

### (1) 資金収支計算書の比率

(単位：%)

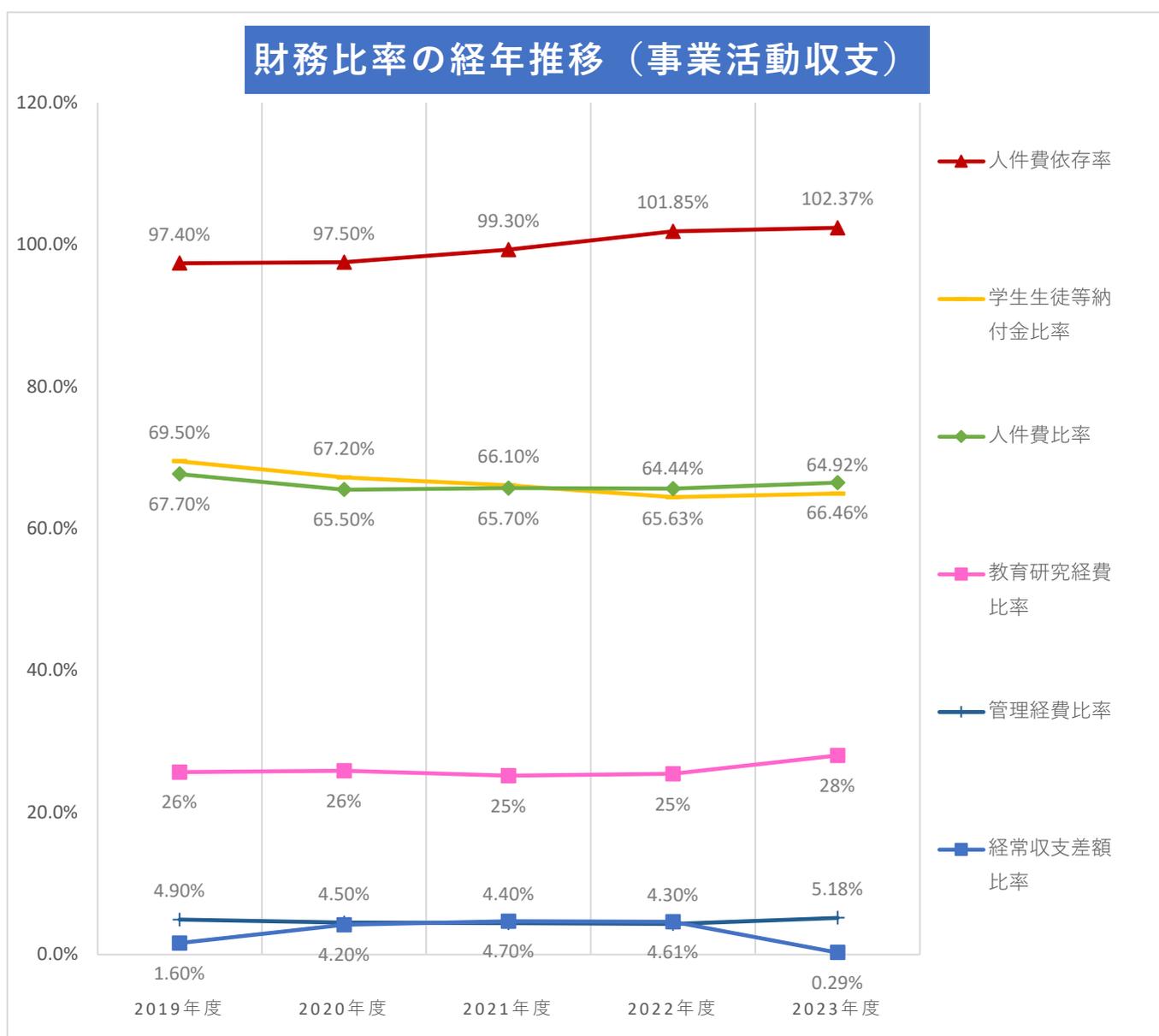
比率名	算出方法	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	9.3%	11.6%	10.5%	7.9%	7.5%



## (2) 事業活動収支の比率

(単位：%)

比率名	算出方法	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	67.70%	65.50%	65.70%	65.63%	66.46%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	97.40%	97.50%	99.30%	101.85%	102.37%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	25.70%	25.90%	25.20%	25.44%	28.06%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	4.90%	4.50%	4.40%	4.30%	5.18%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	2.10%	4.50%	5.40%	5.11%	1.17%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	69.50%	67.20%	66.10%	64.44%	64.92%
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	1.60%	4.20%	4.70%	4.61%	0.29%

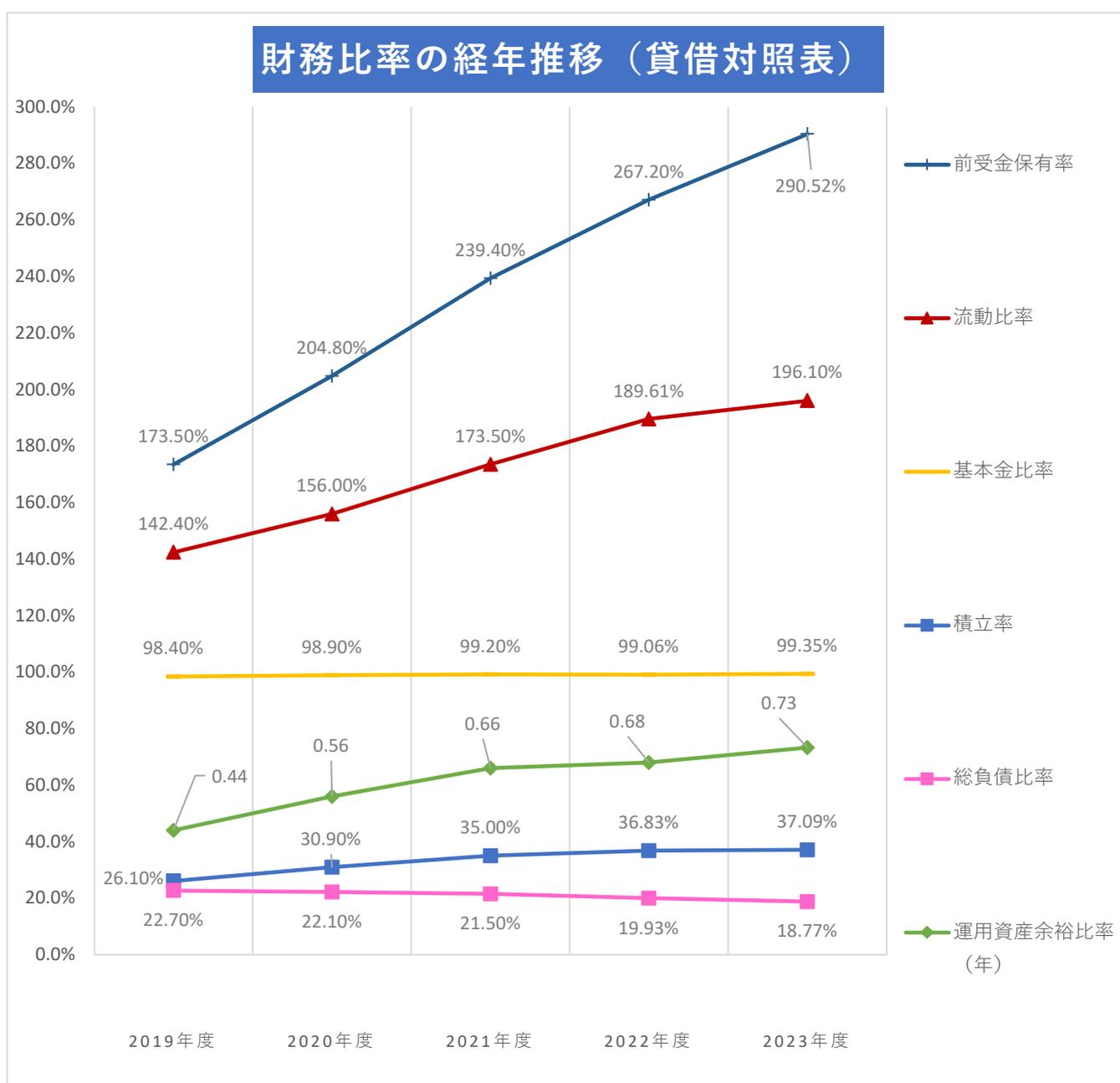


### (3) 貸借対照表の比率

(単位：%)

比率名	算出方法	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
運用資産余裕比率（年）	$\frac{\text{運用資産} - \text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	0.44	0.56	0.66	0.68	0.73
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	142.40%	156.00%	173.50%	189.61%	196.10%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	22.70%	22.10%	21.50%	19.93%	18.77%
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	173.50%	204.80%	239.40%	267.20%	290.52%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	98.40%	98.90%	99.20%	99.06%	99.35%
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}(\ast)}$	26.10%	30.90%	35.00%	36.83%	37.09%

(※) 要積立額 = 減価償却累計額 + 退職給与引当金 + 第2号基本金 + 第3号基本金



## [VI]データ集

### 1. 役員の概要

#### (1) 理事の構成

定数 理事 14～15 人、監事 2 人(基準日：2024 年 3 月 31 日)

区 分	氏 名	常勤／非常勤の別 (* 非業務執行役員)	任 期
理 事 長	井原 徹	常 勤	2019 年 1 月 20 日 理事就任 (2022 年 1 月 20 日 理事重任) 2022 年 1 月 21 日 理事長再任
理 事 (大学・短期大学学長)	高田 文子	常 勤	2021 年 4 月 1 日 理事就任
理 事 (大学子ども学部学部長)	福丸 由佳	常 勤	2021 年 4 月 1 日 理事就任
理 事 (高等学校校長)	武内 彰	常 勤	2021 年 4 月 1 日 理事就任
理 事 (中学校校長)	山田 裕	常 勤	2019 年 4 月 1 日 理事就任
理 事 (法人事務局長)	舟橋 徹	常 勤	2023 年 7 月 1 日 理事就任
理 事 (幼稚園園長)	本山 方子	常 勤	2022 年 1 月 20 日 理事就任
理 事 (高等学校副校長)	兼清 信生	常 勤	2016 年 1 月 20 日 理事就任 (2022 年 1 月 20 日 理事重任)
理 事	樋口 秋夫	非常勤(*)	2022 年 1 月 20 日 理事就任
理 事	増田 昭一	非常勤(*)	2016 年 1 月 20 日 理事就任 (2022 年 1 月 20 日 理事重任)
理 事	長倉 澄	非常勤(*)	2007 年 11 月 13 日 理事就任 (2022 年 1 月 20 日 理事重任)
理 事	昼間 守仁	非常勤(*)	2022 年 1 月 20 日 理事就任
理 事	西井 泰彦	非常勤(*)	2016 年 1 月 20 日 理事就任 (2022 年 1 月 20 日 理事重任)
理 事	細江 卓朗	非常勤(*)	2016 年 1 月 20 日 理事就任 (2022 年 1 月 20 日 理事重任)
理 事	牧野 光昭	非常勤(*)	2019 年 7 月 1 日 理事就任 (2022 年 1 月 20 日 理事重任)
監 事	池田 勝	非常勤(*)	2019 年 1 月 20 日 監事就任 (2022 年 1 月 22 日 監事重任)
監 事	金子 武弘	非常勤(*)	2012 年 3 月 13 日 監事就任 (2022 年 1 月 22 日 監事重任)

## (2) 2024年3月31日までの役員の異動状況

教職員の退職・異動に伴い、下記の変更があった。

区分	(新)			(旧)		
	氏名	変更	日付	氏名	変更	日付
理事 (法人事務局長)	舟橋 徹	就任	2023年7月1日	大林 泉	退任	2023年3月31日

## (3) 責任限定契約、役員賠償責任保険契約の状況

①私立学校法及び寄附行為第46条(2020年4月1日施行)に基づき、対象となる非業務執行役員と責任限定契約(任期中有効、再任後も効力を有する)を締結した。2024年3月31日現在の対象役員は9名。

※学校法人白梅学園寄附行為より抜粋。

### (責任限定契約)

第46条 理事(理事長、常務理事、業務を執行したその他の理事又はこの法人の職員でないものに限る。)又は監事(以下この条において「非業務執行理事等」という。)が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金60万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事等と締結することができる。

②私立学校法に基づき、2020年4月より下記の役員賠償責任保険に加入した(2020年3月16日理事会報告)。2023年1月30日理事会の承認を得て、2023年度も契約を継続した。

**加入保険：**私大協役員賠償責任保険制度(D&O マネジメントパッケージ)

(経営責任総合保障特約条項・特定危険負担保特約条項・会社有価証券賠償責任等不担保特約条項・役員定義修正特約条項・追加保険料の払込猶予に関する特約条項付帯 会社役員賠償責任保険)

**契約期間：**2023年4月1日～2024年4月1日

**補償対象(被保険者)：**本学園及び本学園役員個人

**年間保険料：**266,000円

**保険期間中総支払限度額：**10億円

## 2. 評議員の概要

### (1) 評議員の構成

定数 評議員 29～31 人(基準日：2024 年 3 月 31 日)

氏名	区分	氏名	区分
高田 文子	大学学長	増田 昭一	卒業生で 25 歳以上のものから各同窓会の推薦を経た者
福丸 由佳	大学子ども学部学部長	坂本 勝恵	卒業生で 25 歳以上のものから各同窓会の推薦を経た者
武内 彰	高等学校校長	遠藤 源太郎	卒業生で 25 歳以上のものから各同窓会の推薦を経た者
山田 裕	中学校校長	町田 晴美	卒業生で 25 歳以上のものから各同窓会の推薦を経た者
本山 方子	幼稚園園長	大迫 和子	卒業生で 25 歳以上のものから各同窓会の推薦を経た者
舟橋 徹	法人事務局長	山口 洋子	卒業生で 25 歳以上のものから各同窓会の推薦を経た者
小林 美由紀	大学及び短期大学教授会の推薦する教員	白川 恭子	法人に関係のある学識経験者
倉澤 壽之	大学及び短期大学教授会の推薦する教員	中島 百合子	法人に関係のある学識経験者
廣澤 満之	大学及び短期大学教授会の推薦する教員	長 明美	法人に関係のある学識経験者
須川 公央	大学及び短期大学教授会の推薦する教員	井関 浩樹	法人に関係のある学識経験者
兼清 信生	高等学校副校長	木村 修三	法人に関係のある学識経験者
鈴木 邦夫	中学校副校長	根本 和彦	法人に関係のある学識経験者
細井 俊克	中学校及び高等学校教員の推薦する教員	田原 三保子	法人に関係のある学識経験者
昼間 史	その他の教職員の推薦する教職員	山路 憲夫	法人に関係のある学識経験者
仙波 良太郎	その他の教職員の推薦する教職員	須藤 勉	法人に関係のある学識経験者
		樋口 秋夫	法人に関係のある学識経験者

### (2) 2024 年 3 月 31 日までの評議員の異動状況

教職員の退職・異動に伴い、下記の変更があった。

区分	(新)			(旧)		
	氏名	変更	日付	氏名	変更	日付
大学及び短期大学教授会の推薦する教員	倉澤 壽之	就任	2023年4月1日	市川 奈緒子	退任	2023年3月31日
法人事務局長	舟橋 徹	就任	2023年7月1日	大林 泉	退任	2023年3月31日

### 3. 2023年度理事会・評議員会の開催状況

#### (1) 理事会・評議員会

(2023年度開催回数 理事会9回、評議員会4回)

理事会		評議員会	
①	2023年 5月22日(月)	①	2023年 5月22日(月)
②	6月26日(月)	②	11月27日(月)
③	7月31日(月)	③	2024年 1月29日(月)
④	9月25日(月)	④	3月18日(月)
⑤	10月23日(月)		
⑥	11月27日(月)		
⑦	2024年 1月29日(月)		
⑧	2月26日(月)		
⑨	3月18日(月)		

#### (2) 常勤理事会

(2023年度開催回数 常勤理事会18回)

常勤理事会			
①	2023年	4月3日(月)	※臨時
②		4月10日(月)	
③		4月24日(月)	
④		5月8日(月)	
⑤		6月5日(月)	
⑥		6月19日(月)	※臨時
⑦		7月10日(月)	
⑧		7月24日(月)	※臨時
⑨		8月7日(月)	
⑩		9月4日(月)	
⑪		10月2日(月)	
⑫		11月13日(月)	
⑬		12月4日(月)	
⑭		12月18日(月)	
⑮	2024年	1月15日(月)	
⑯		2月5日(月)	
⑰		2月16日(月)	※臨時
⑱		3月4日(月)	

### 4. 教職員の概要（専任教職員数）

職種	2022年度 (2022年4月1日)	2023年度 (2023年4月1日)	前年度 差	備考
大学教員	42	43	1	大学院含む
短大教員	12	10	-2	
高校教諭	58	56	-2	
中学校教諭	12	12	0	
幼稚園教諭	11	10	-1	
事務職員	48	46	-2	
計	183	177	-6	

5 . 2023年度進路状況

(1)白梅学園大学・短期大学

●白梅学園大学 子ども学部子ども学科（9月卒含む）

※一時的除く

学科	卒業 予定者 数 A	希望 進路	就 職											
			種別	希望者 B	決定者数 C=D+E+F			内定・ 決定率 G=C/B*100	内定・ 決定率 ※ G=(D+E)/B *100	前年度 同月 内定率				
					無期雇用 正規採用 D	有期雇用 非正規 E	一時的 F							
子ども 学科	153	就 職	公務	行政・一般職	2	2	2		100.0	100.0	-			
				福祉職	6	6	6		100.0	100.0	100.0			
				小計	8	8	8	0	0	100.0	100.0	100.0		
			保・幼	公立保育園	42	42	41	1	0	100.0	100.0	100.0		
				私立保育園	41	41	40	0	1	100.0	97.6	100.0		
				公立幼稚園	0	0	0			-	-	100.0		
				私立幼稚園	10	10	9	1		100.0	100.0	100.0		
				私立認定こども園	3	3	2	1		100.0	100.0	100.0		
			小計	96	96	92	3	1	100.0	99.0	100.0			
			施設	公立施設	1	1	1			100.0	100.0	100.0		
				準公立施設	1	1	1			100.0	100.0	-		
				私立施設	15	15	13	1	1	100.0	93.3	100.0		
			小計	17	17	15	1	1	100.0	94.1	100.0			
			小学	公立小学校	17	17	15	2		100.0	100.0	100.0		
				公立特別支援学校	1	1	1			100.0	100.0	-		
			小計	18	18	16	2	0	100.0	100.0	100.0			
			企業	11	11	8	0	3	100.0	72.7	93.8			
			<b>就職希望者 計</b>				<b>150</b>	<b>150</b>	<b>139</b>	<b>6</b>	<b>5</b>	<b>100.0</b>	<b>96.7</b>	<b>99.3</b>
			進 学				0	0				-	100.0	
			希望なし				4	4				100.0		
			未定・未提出				0	0				-		

学科	卒業 予定者 数 A	希望 進路	就 職											
			種別	希望者 B	決定者数			内定・ 決定率 G=C/B*100	内定・ 決定率 ※ G=(D+E)/B *100	前年度 同月 内定率				
					C=D+E+F	無期雇用 正規採用 D	有期雇用 非正規 E				一時的 F			
発達臨床 学科	51	就 職	公務	行政・一般職	0	0	0		-	-	100.0			
				福祉職	1	1	1		100.0	100.0	100.0			
				小計	1	1	1	0	0	100.0	100.0	100.0		
			保・幼	公立保育園	10	10	10		100.0	100.0	100.0			
				私立保育園	11	11	10		100.0	90.9	100.0			
				公立幼稚園	0	0	0		-	-	-			
				私立幼稚園	2	2	2		100.0	100.0	100.0			
				私立認定こども園	0	0	0		-	-	100.0			
				小計	23	23	22	0	1	100.0	95.7	100.0		
			施設	公立施設	5	5	5		100.0	100.0	100.0			
				準公立施設	0	0	0		-	-	-			
				私立施設	4	4	4		100.0	100.0	100.0			
				小計	9	9	9	0	0	100.0	100.0	100.0		
			小学	公立小学校	5	5	4	1		100.0	100.0	100.0		
				公立特別支援学校	2	2	2			100.0	100.0	100.0		
				小計	7	7	6	1	0	100.0	100.0	100.0		
			企業	5	5	3	1	1		100.0	80.0	100.0		
			<b>就職希望者 計</b>				<b>45</b>	<b>45</b>	<b>41</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>100.0</b>	<b>95.6</b>	<b>100.0</b>
			進 学				3	3				100.0		100.0
			希望なし				3	3				-		-
			未定・未提出				0	0				-		

●白梅学園大学 子ども学部家族・地域支援学科（9月卒含む）

※一時的除く

学科	卒業 予定者 数 A	希望 進路	就 職							前年度 同月 内定率		
			種別	希望者 B	決定者数			内定・ 決定率 G=C/B*100	内定・ 決定率 ※ G=(D+E)/B *100			
					無期雇用 正規採用 C=D+E+F	有期雇用 非正規 E	一時的 F					
家族・ 地域支援 学科	41	就 職	公務	行政・一般職	0	0				-	-	-
			公務	福祉職	3	3	2	1	0	100.0	100.0	100.0
				小計	3	3	2	1	0	100.0	100.0	100.0
			保	公立保育園	0	0				-	-	-
			保	私立保育園	1	1	1			0.0	0.0	-
				小計	1	1	1	0	0	-	-	-
			施設	公立施設	2	2	2			100.0	100.0	100.0
			施設	準公立施設	0	0				-	-	-
			施設	私立施設	24	22	21	0	1	91.7	87.5	100.0
				小計	26	24	23	0	1	92.3	88.5	100.0
			小学	公立小学校	1	1	1			100.0	100.0	100.0
			企業		7	7	6		1	100.0	85.7	100.0
				就職希望者 計	38	36	33	1	2	94.7	89.5	100.0
				進 学	0	0				-	-	-
				希望なし	3	3				100.0	-	-
				未定・未提出	0	0				-	-	-

※法務教官の職種→福祉職

●白梅学園短期大学保育科

※一時的除く

学科	卒業 予定者数 A	希望 進路	種別	希望者 B	決定者数			内定・ 決定率 G=C/B*100	内定・ 決定率※ G=(D+E)/B*100	前年度 同月 内定率		
					C=D+E+F	無期雇用 正規採用 D	有期雇用 非正規 E				一時的 F	
保育科	82	就 職	公務（行政・一般職）	0	0	0		-	-	-		
			保・幼	公立保育園	1	1	1		100.0	100.0	100.0	
				私立保育園	46	46	45	0	1	100.0	97.8	100.0
				公立幼稚園	0	0	0		-	-	0.0	
				私立幼稚園	13	13	13		100.0	100.0	100.0	
				私立認定こども園	4	4	4		100.0	100.0	100.0	
			小計	64	64	63	0	1	100.0	98.4	100.0	
			施設	公立施設	0	0	0		-	-	0.0	
				私立施設	6	6	6		100.0	100.0	100.0	
			小計	6	6	6	0	0	100.0	100.0	100.0	
			企業等	4	4	0	1	3	100.0	25.0	100.0	
			<b>就職希望者 計</b>	<b>74</b>	<b>74</b>	<b>69</b>	<b>1</b>	<b>4</b>	<b>100.0</b>	<b>94.6</b>	<b>100.0</b>	
			進 学	6	6				100.0	100.0	100.0	
			希望なし	2	2						100.0	
			未定・未提出	0	0						0.0	

## (2) 白梅学園高等学校

【2023年度進路実績】

	指定校 推薦	公募制 推薦	総合型 選抜	一般 選抜	計	%
四年制大学	109	12	41	72	234	83.0%
他大学	80	12	39	72	203	( 72.0% )
白梅学園大学	29		2		31	( 11.0% )
子ども	22				22	( 7.8% )
家族・地域支援	1		1		2	( 0.7% )
子ども心理	3		1		4	( 1.4% )
教育	3				3	( 1.1% )
短期大学	15		5		20	7.1%
他短大	6		5		11	( 3.9% )
白梅学園短期大学	9				9	( 3.2% )
専門学校		5	9	6	20	7.1%
就職					1	0.4%
浪人					3	1.1%
家事従事・留学 等					4	1.4%

## (3) 白梅学園清修中学校・中高一貫部

【2023年度進路実績】

	指定校 推薦	公募推薦	自己推薦	一般受験	総合型 選抜入 試	計	%
四年制大学	0	1	0	11(2)	4	16(2)	84.2
短期大学	0	0	0	0	0	0	0
専門学校	0	0	0	1	0	1	5.3
就職	0	0	0	0	0	0	0
浪人						2	10.5
留学等						0	0

※ ( ) 内は過年度生